

---

○評 価 表  
○具体的取組状況  
(H26)

〔 P1～P21 県立広島病院  
P22～P38 県立安芸津病院 〕

---



# 県立広島病院

1 評 価 表

2 具体的取組状況

(H26)

# 平成26年度の取組状況

## 1 広島病院評価表

### 1 具体的取組

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価	委員意見
1 医療機能の強化と患者サービスの向上						
1	救急医療機能の強化	高度・複雑・重症な救急患者の受入体制を強化 ドクターヘリの運用協力・支援	・脳心臓血管センターを開設し、講演会など立ち上げの各種行事を実施するとともに、電子カルテの機能追加や新たに患者向けの管理手帳を発行した。 ・ドクターヘリの運行に貢献した。	◎	◎	総合診療科医師の増員や救急外来クラークの配置、脳心臓血管センターの開設などの救急受入体制の強化に取り組んだ結果、救急搬送件数や重篤患者の受入増加につながっていることが認められ、高く評価した。
2	成育医療機能の強化	低出生体重児等の受入体制の強化 成育医療センターの機能強化 安全な分娩体制の確立	・NICU3床の増床へ向けて、医療機器、看護師の増員などの準備を完了した。また、少子化対策や児童虐待などに関し県立の病院として県行政へ協力した。	○	○	ハイリスク分娩への対応は高く評価できるが、患者数は前年度に比べ、緊急母体搬送件数・NICU患者数とともに減少している。 患者数の減少を食い止める施策を講じ、広島県成育医療の最後の砦として医療機能をより一層発揮していただきたい。
3	がん診療機能の強化	広島がん高精度放射線治療センターとの連携 「人にやさしいがん医療」の提供	・腫瘍センター開設へむけ、がん専用病棟となる東6病棟に相談室などの整備を行った。 ・がん専門医よろず相談所を開設し、患者さんの悩みに応えられる体制を整備した。	◎	◎	「がん専門医よろず相談所」の開設、「遺伝子検査装置」の導入、「がん関連各種講演会・研修会」の開催など、県内のがん診療についてリードする取り組みがなされていることを高く評価した。
4	地域医療への貢献	地域医療連携の推進	・近隣の地区医師会との懇談会を3回開催するなど、地域の医療機関との顔を見える関係を推進した。	○	○	200を超える医療機関とのKBネットの構築、1,750医療機関に対する連携証の発行、医師会との懇談会や県内病院への医師・看護師の派遣など、具体的な連携の取り組みを実践していることは評価できる。特に90%前後と高水準を維持している紹介率・逆紹介率は、高く評価できる。 今後は、県全体をカバーする県立病院として、人材派遣による地域医療機関の支援や、広島市内4病院での連携などを通じた取組を強化し、これまで以上に地域医療に貢献されることを期待したい。
5	医療の安全と質の向上	医療安全の確保 医療の質の向上	・改善活動の本格実施に向けて、改善推進室の設立準備、TQMサークルの編成など、概ね必要な準備を行うことができた。	○	○	医療安全に対する取り組みは適切に実施されていることが窺われる。ヒアリング、ハット事例や医療事故については、分析・対策が十分かどうか検証されるとよい。 改善活動においては、米国の病院視察や民間病院主催セミナーへ参加し、VMPs病院生産方式を参考にした取り組みを進めるなど、活発に活動されており、評価できる。
6	患者サービスの向上	利便性の向上 患者ニーズ等への的確な対応と 患者支援の充実 広報の充実	・南棟などの療養環境の整備、有料個室などの改修を実施し、入院患者の利便性を向上させることができた。 ・前年度と同様に地区医師会などとの共催で一般住民向けの地域健康フォーラムを開催できた。	○	○	地域巡回講演会や地域健康フォーラム、あるいは9種類に及ぶ患者会の開催など、患者サービスの向上に努めている。 今後は、患者満足度調査で明らかとなった、待ち時間短縮などの課題の解決に向けての具体的な取り組みを期待したい。
2 人材育成・確保・派遣機能の強化						
7	医療人材の育成・確保・派遣	医師の育成・確保 看護師等コメディカルの確保・育成等 医療人材の派遣等	・初期臨床研修医について定員16人を充足し、8年連続フルマッチを達成した。 ・認定看護師を新たに3人養成できた。 ・三次中央病院に看護師2名を派遣し、人材確保等に貢献した。 ・西中国県立中央病院との看護師交流を実現した。	◎	◎	初期臨床研修医の8年連続フルマッチや数多くの海外学会発表、認定資格取得のための財政的支援、県内医療従事者に対する教育研修など、人材育成・派遣に積極的に取り組んでいることを高く評価した。
3 危機管理対応と経営力の強化						
8	危機管理対応力の強化	災害・感染症対策の強化	・大規模土砂災害事案について、DMAT隊を2隊派遣し、基幹災害拠点病院として災害医療に尽力した。 ・自家発電機などの改修に着手した。	◎	◎	DMATの豪雨災害での献身的な活動をはじめ、基幹災害拠点病院として、災害医療に尽力していることを高く評価した。 医療以外の関係機関との連携会議への参加等の取組状況についても教えていただきたい。
9	経営力の強化	情報共有とPDCAサイクル事務部門の強化	・主要委託業者との面談を実施し、より質の高い業務遂行となるよう意見交換を実施した。 ・新しい医療の実施、機能強化のため必要な施設整備、器械備品の購入を行った。	○	○	院長自らが主要委託業者との面談を行ったことは評価できる。今後はその内容や成果を示していただきたい。 また、委託契約の見直しの成果については、経済性のみならず、品質性の観点からも検証されたい。
10	増収対策	医業収益の増加策 患者負担の適正化 未収金対策 など	・平成26年度の診療報酬改定では新規算定項目は少なかったが、DPC病院Ⅱ群へ向けての取り組みを進め、効果が出た。	○	○	診療報酬改定への対応、DPC病院Ⅱ群参入に向けた取組、患者負担の適正化、診療報酬査定への対応など、増収策に積極的に取り組んでいる。 今後の診療報酬改定に的確に対応できるようさらなる努力を期待したい。
11	費用合理化対策	適正な材料・備品の購入 経費の見直し	・新しい医療に取り組むものには積極的に費用を投入し、経常的なものは縮減するなどバランスをとりながら費用の合理化を進めることができた。	○	○	職員提案によるコスト削減や水道光熱費の削減については高く評価するが、消費税増税の対策としてはまだ不十分である。 また、収益性や使用効率だけでなく、医療の安全性にも配慮して、費用の合理化を推進されたい。

# 平成26年度の取組状況

## 1 広島病院評価表

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会 評価	委員意見
4 連携強化						
12	2病院の協力状況	医薬品の共同購入 医療機能維持・質の向上へ協力	・これまでの取組を継続した。	○	○	県立病院看護研究発表会の共同開催や広島病院MEの安芸津病院への派遣は評価できる。今後は、他の医療職種職員の派遣など、新たな取組みを期待したい。 安芸津病院との共同購入については、可能な限り行われているのかどうか示していただきたい。

## 2 取組結果


5 決算、目標指標						
13	収支改善、目標指標		・新会計制度の実施、診療報酬改定、消費税増税、給与カットの復元措置など外部環境が厳しい中でも、経営改善の努力を重ね、経常収支の黒字を達成した。	○	○	ほぼ全ての指標について、目標達成水準に到達し、約1.5億円の経常収支黒字を達成したことは高く評価できるが、前年度に比べて、医療費用の伸びが医療収益の伸びを上回っており、楽観できる状況ではないことが伺われる。 今後は、「入るを量りて、出ざるを制す」に努められたい。

総合評価				◎	病院を取り巻く環境の変化が大きい中で、県民医療の最後の砦として、さまざまな工夫を凝らしながら、公共性と経済性を両立させていることは、高く評価したい。 取組項目ごとの評価は、今後の取組の発展に期待を込めて評価を行った結果、「○」とした項目が多くなっているが、総合的にみると広島県のリーディングホスピタルとしての役割を十分に果たしていると認められる。
------	--	--	--	---	--

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ① 救急医療機能の強化

	H25	H26
自己評価	○	◎
委員評価	○	◎

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価																												
<p>○救急患者受入体制の強化 ・高度・複雑・重症な救急患者の受入体制を強化</p>	<p>○指標</p> <table border="1"> <caption>救急患者全体の状況 単位:人</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急車</td> <td>4,646</td> <td>4,931</td> <td>285</td> </tr> <tr> <td>うち入院</td> <td>2,705</td> <td>3,078</td> <td>373</td> </tr> <tr> <td>救急車以外</td> <td>4,760</td> <td>5,039</td> <td>279</td> </tr> <tr> <td>うち入院</td> <td>1,135</td> <td>1,349</td> <td>214</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>9,406</td> <td>9,970</td> <td>564</td> </tr> <tr> <td>うち入院</td> <td>3,840</td> <td>4,427</td> <td>587</td> </tr> </tbody> </table> <p>・救急車受入台数:4,931台(+285台) うちホットライン受入件数:646件(-14件) 入院に至る率:62.4%(3,078人/4,931台)</p> <p>・救命救急センター患者数 入院実人数:2,116人(+238人) ※参考:H25広島県内の救命救急センター(6か所)における重篤患者数5,679人 うち、県立広島病院1,060人</p> <p>○取組</p> <p>・<b>救急外来にクラークを配置(準夜帯の一部及び休日日動帯) 9/1~ ※病院機能評価の受審結果を受けた対応</b></p> <p>○緊急手術件数の推移 H24:778 H25:814 H26:827(+13件)</p>	区分	H25	H26	増減	救急車	4,646	4,931	285	うち入院	2,705	3,078	373	救急車以外	4,760	5,039	279	うち入院	1,135	1,349	214	合計	9,406	9,970	564	うち入院	3,840	4,427	587	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車の受入数は対前年度比で増加し、救急車受入れのうち入院に至る患者も増加した。</li> <li>・2次3次救急の一体的提供へ向けての準備を開始した。</li> <li>・脳心臓血管センターの運営を開始し、各種の行事を開催した。</li> <li>・ドクターヘリ協力病院として医師と看護師を派遣し事業の継続に協力し、一定数の患者を受け入れた。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的(2次・3次救急)な救急医療提供体制の構築</li> </ul>
区分	H25	H26	増減																											
救急車	4,646	4,931	285																											
うち入院	2,705	3,078	373																											
救急車以外	4,760	5,039	279																											
うち入院	1,135	1,349	214																											
合計	9,406	9,970	564																											
うち入院	3,840	4,427	587																											
<p>○幅広い疾患に対応できる総合診療医を育成するとともに、総合診療科を発展・改組し、救急科と連携させ、2次、3次救急を一体的・効率的に提供する。</p>	<p>○取組</p> <p>・<b>総合診療科医師を2人増員し受入体制を強化</b> 主に高齢者の2次救急の需要増加を視野に入れ総合診療科の医師を増員。</p> <p>・<b>救急外来の機能強化</b> 救急外来のトリアージナースの強化…二次救急～三次救急まで扱えるよう研修を実施</p>																													
<p>○脳心臓血管センターの設置・稼働</p> <p>・高齢化に伴い増加する脳・心臓疾患の患者などの受入れを強化する。</p> <p>・発症予防から再発防止までの一連の医療を地域と連携して提供する。</p>	<p>○指標</p> <p>・アンギオに係る手術件数(冠動脈形成術、脳血管内治療など):630人(+54人)</p> <p>○取組</p> <p>・<b>動脈硬化に起因する全身血管病に対し総合的医療を提供する「脳心臓血管センター」の設置(4/1~)</b></p> <p>◇コア診療科:脳神経内科、脳神経外科、循環器内科、心臓血管外科…糖尿病・内分泌内科などと連携</p> <p>・<b>バスキュラーボードの開始(4/3~)※センター各科医師による、症例の検討、最新知識の共有や治療戦略を議論する会合</b></p> <p>・<b>開設記念講演会の開催(9/29)</b></p> <p>・<b>「脳心臓血管管理手帳」の発行による本格稼働開始(10/1~)</b></p> <p>・<b>病診連携カンファレンス「抗血栓薬の使い方」の開催(10/23)、抄録の作成 H27.2月</b></p> <p>・<b>一般県民向け講演会「あなたの血管は大丈夫？」の開催(11/29)</b></p> <p>・救急隊との症例検討会「プレホスピタル脳心臓血管症例検討会」の開催(2回) ①6/19 テーマ:「一過性虚血性発作」②2/16 テーマ:「急性大動脈解離」</p>	 <p>H26.11.29 一般県民向け講演会 「あなたの血管は大丈夫？」</p>																												
<p>○ドクターヘリへの運用協力・支援</p>	<p>・平成25年度から引き続き、週3日を県立広島病院、週4日を広島大学病院が担当 受入件数:75件(+25件) ※参考 広島大学病院:101件</p>																													

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ② 成育医療機能の強化

	H25	H26
自己評価	○	○
委員評価	○	○

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価										
<p>○成育医療センターの機能強化</p> <p>・ハイリスク分べんへの対応、低出生体重児等の受入体制を強化するため、NICUの増床等に取組む。</p>	<p>○周産期医療関連の指標</p> <p>【産科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急母体搬送受入件数:112件(-7件),ハイリスク分娩管理加算件数:136件(-33件)</li> <li>・ハイリスク妊娠管理加算件数:81件(-16件)</li> <li>・分娩件数:621件(-103件)</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島県 出生数</td> <td>25,469</td> <td>24,846</td> <td>24,713</td> <td>23,775</td> </tr> </tbody> </table> <p>※期間は暦年、人口動態年報「出生」から</p> <p>【新生児科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NICU延患者数:8,790人(-967人)</li> <li>・新生児搬送受入件数(率):73人(28.5%:73人/256人)(+7.5P)</li> </ul> <p>○その他の成育医療関係の指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生殖医療科採卵件数:307件(-13件),胚移植件数:466件(+100件)</li> <li>・生殖医療セミナー開催件数6回,参加者延290人(+1人)</li> <li>・歯科口腔外科手術件数(先天性の口唇裂,口蓋裂などに対する手術):16件(-1件)</li> <li>・小児外科手術件数:241件(-14件)</li> <li>・小児感覚器科外来患者数:6,677人(-320人)</li> <li>・婦人科手術件数:385件(-15件)</li> </ul> <p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NICU3床増床に向けた準備(保育器等の整備,看護師の採用など)</li> <li>・小児外科の鼠径ヘルニア件数が開設以来累計10,000件を突破(1/13)</li> </ul> <p><b>・がん患者に対する妊孕性(にんようせい)温存技術の実用化(卵巣凍結保存)(4/1~)</b></p> <p><b>・Y染色体微小欠失分析検査等開始(4/1~)</b></p> <p><b>・健康対策課作成 若者向けリーフレット「今から考えてみませんか?妊娠・出産のこと」への協力(平成27年2月) 生殖医療科 原主任部長</b></p> <p><b>・児童虐待について,広島県健康福祉局西部こども家庭センターとの意見交換会を開催(1/27)</b></p>	区分	H23	H24	H25	H26	広島県 出生数	25,469	24,846	24,713	23,775	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者数等は一部減少したが,総合周産期母子医療センターとしてハイリスク分娩や低出生体重児に対する医療の提供で役割を果たせた。</li> <li>・NICU3床の増床へ向けて,医療職増員,医療機器の整備などの準備を完了した。</li> <li>・生殖医療に関し,若年の女性がん患者が子どもを得られるべく妊孕性を温存する新しい治療を導入した。</li> <li>・少子化対策,児童虐待など成育医療に関連する分野について,県行政に協力した。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正常分娩の増加</li> <li>・増床後のNICUの有効活用</li> <li>・成育医療とがん医療に係る領域の院内連携の推進</li> </ul>
区分	H23	H24	H25	H26								
広島県 出生数	25,469	24,846	24,713	23,775								
<p>○セミオープンシステムなどにより,病診連携による安全な分娩体制を確立する。</p>	<p>○安全な分娩体制に関する指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミオープンシステムによる分娩件数:83件 全分娩中13.3%(+5件, +2.5P)</li> <li>・助産外来患者数:179人(-89人)</li> </ul>											

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ② 成育医療機能の強化




取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価																																																																																																		
<p>○成育医療センターの機能強化</p> <p>・NICUの増床等, 成育医療センターの一層の充実を図る。</p>	<p>○母親の出産年齢をその構成比較</p> <table border="1" data-bbox="1422 467 1736 667"> <thead> <tr> <th>年齢(年)</th> <th>広島県全体</th> <th>県立広島病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>15歳未満</td><td>2</td><td>0</td></tr> <tr><td>15～19</td><td>421</td><td>9</td></tr> <tr><td>20～24</td><td>2,402</td><td>47</td></tr> <tr><td>25～29</td><td>7,378</td><td>159</td></tr> <tr><td>30～34</td><td>8,555</td><td>246</td></tr> <tr><td>35～39</td><td>4,965</td><td>225</td></tr> <tr><td>40～44</td><td>957</td><td>91</td></tr> <tr><td>45～49</td><td>33</td><td>4</td></tr> <tr><td>50歳以上</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>合計</td><td>24,713</td><td>781</td></tr> </tbody> </table> <p>出生数に対する割合</p> <table border="1" data-bbox="1422 691 1736 893"> <thead> <tr> <th>年齢(年)</th> <th>広島県全体</th> <th>県立広島病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>15歳未満</td><td>0.0%</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>15～19</td><td>1.7%</td><td>1.2%</td></tr> <tr><td>20～24</td><td>9.7%</td><td>6.0%</td></tr> <tr><td>25～29</td><td>29.9%</td><td>20.4%</td></tr> <tr><td>30～34</td><td>34.6%</td><td>31.5%</td></tr> <tr><td>35～39</td><td>20.1%</td><td>28.8%</td></tr> <tr><td>40～44</td><td>3.9%</td><td>11.7%</td></tr> <tr><td>45～49</td><td>0.1%</td><td>0.5%</td></tr> <tr><td>50歳以上</td><td>0.0%</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>合計</td><td>100%</td><td>100%</td></tr> </tbody> </table> <p>※広島県全体は人口動態統計「出生」から、県立広島病院は医事システム算出データから取得</p> <p>○新生児科 体重別出生児の推移</p> <table border="1" data-bbox="1391 991 1803 1374"> <thead> <tr> <th>体重</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>～499g</td><td>5</td><td>4</td><td>2</td></tr> <tr><td>500～749g</td><td>9</td><td>11</td><td>11</td></tr> <tr><td>750～999g</td><td>9</td><td>16</td><td>15</td></tr> <tr><td>1,000g～1,499g</td><td>25</td><td>33</td><td>26</td></tr> <tr><td>1,500～2,499g</td><td>99</td><td>94</td><td>88</td></tr> <tr><td>2,500g～</td><td>115</td><td>96</td><td>114</td></tr> <tr><td>合計</td><td>262</td><td>254</td><td>256</td></tr> </tbody> </table>	年齢(年)	広島県全体	県立広島病院	15歳未満	2	0	15～19	421	9	20～24	2,402	47	25～29	7,378	159	30～34	8,555	246	35～39	4,965	225	40～44	957	91	45～49	33	4	50歳以上	0	0	合計	24,713	781	年齢(年)	広島県全体	県立広島病院	15歳未満	0.0%	0.0%	15～19	1.7%	1.2%	20～24	9.7%	6.0%	25～29	29.9%	20.4%	30～34	34.6%	31.5%	35～39	20.1%	28.8%	40～44	3.9%	11.7%	45～49	0.1%	0.5%	50歳以上	0.0%	0.0%	合計	100%	100%	体重	H24	H25	H26	～499g	5	4	2	500～749g	9	11	11	750～999g	9	16	15	1,000g～1,499g	25	33	26	1,500～2,499g	99	94	88	2,500g～	115	96	114	合計	262	254	256	<p>母親の年齢構成割合を広島県全体と比較すると、県立広島病院は若年層よりも高齢層の母親が多く、近年この傾向が継続している。</p> <p>26年度と25年度の比較では大きな変化はない。</p>
年齢(年)	広島県全体	県立広島病院																																																																																																		
15歳未満	2	0																																																																																																		
15～19	421	9																																																																																																		
20～24	2,402	47																																																																																																		
25～29	7,378	159																																																																																																		
30～34	8,555	246																																																																																																		
35～39	4,965	225																																																																																																		
40～44	957	91																																																																																																		
45～49	33	4																																																																																																		
50歳以上	0	0																																																																																																		
合計	24,713	781																																																																																																		
年齢(年)	広島県全体	県立広島病院																																																																																																		
15歳未満	0.0%	0.0%																																																																																																		
15～19	1.7%	1.2%																																																																																																		
20～24	9.7%	6.0%																																																																																																		
25～29	29.9%	20.4%																																																																																																		
30～34	34.6%	31.5%																																																																																																		
35～39	20.1%	28.8%																																																																																																		
40～44	3.9%	11.7%																																																																																																		
45～49	0.1%	0.5%																																																																																																		
50歳以上	0.0%	0.0%																																																																																																		
合計	100%	100%																																																																																																		
体重	H24	H25	H26																																																																																																	
～499g	5	4	2																																																																																																	
500～749g	9	11	11																																																																																																	
750～999g	9	16	15																																																																																																	
1,000g～1,499g	25	33	26																																																																																																	
1,500～2,499g	99	94	88																																																																																																	
2,500g～	115	96	114																																																																																																	
合計	262	254	256																																																																																																	

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ③ がん医療機能の強化

	H25	H26
自己評価	◎	◎
委員評価	◎	◎

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○チーム医療を中心とする集学的治療の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低侵襲治療、緩和ケア等を総合的に組み合わせた「人にやさしい医療」を提供する。</li> </ul>	<p>○指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん患者数:4,223人(+483人), がんの手術件数843件(+91件)</li> <li>・外来化学療法実施件数:7,218件(+178件)</li> <li>・リニアック:8,134件(-1,385件), RALS:39件(+1件), 密封小線源(前立腺がん)28件(4件)</li> <li>・緩和ケア診療加算件数:1,740件(-312件), 外来緩和ケア管理料算定件数105件(-30件)</li> <li>・5大がん連携パス登録医療機関数:460施設(+24施設) ※H27.5.31現在</li> <li>・5大がん地域連携パス適用患者数 205件(前年度同数)</li> <li>・周術期口腔機能管理算定件数6,619件(+2,435件)</li> </ul> <p>○取組</p> <p>①医療機能の充実に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>地域がん診療連携拠点病院</b>」指定の更新(3/31) 期間:H27.4.1~H31.3.31</li> <li>・<b>抗がん剤や放射線治療を受けるがん患者に、診療科にとられないチーム医療を行う「腫瘍センター」の設置準備 東6病棟にカンファレンス室を整備(2/4) 開設4/1~</b></li> <li>・<b>遺伝子検査装置(i-densy)の導入(27年2月)</b> ※がん細胞の遺伝子を調べ、医師が個々の患者さんに最適な抗がん剤を選択できる。</li> </ul> <p>②相談機能の充実に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>がん専門医よろず相談所</b>」の開設(7/15) <b>各相談時間1時間&lt;無料&gt;</b> <b>相談件数214件 院外83%(県内他のがん診療連携拠点病院から123人来院), 院内17%</b></li> <li>・<b>開設記念講演会の開催(7/5), 医療従事者向け講演会の開催(10/16)</b></li> </ul> <p>③がんに関する治験の実施状況(H25:プロトコール件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床腫瘍科:4, 消化器内科:1, 泌尿器科:1, 婦人科:1</li> </ul> <p>④講演会、研修会の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん診療連携拠点病院共催市民講演会(10/26) 「今 知っておきたい! がんと免疫・薬物療法・医療費のお話し」 ※二次医療圏内5拠点病院による共催 血液内科医師、緩和ケア認定看護師、呼吸器内科医師による講演</li> <li>・がん医療従事者研修会 合計5回開催(5/8,7/31,10/16,1/22,3/24) 「乳がんの最新治療」(7/31), 「がん患者の心のケア」(1/22)など</li> <li>・緩和ケアに関する研修会 緩和ケア支援室が「緩和ケア専門研修」などを実施。緩和ケア専門研修参加者:延べ556人</li> </ul>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腫瘍センター開設へむけ、がん専用病棟となる東6病棟の整備を行った。</li> <li>・がん専門医よろず相談所を開設し、好評により当初の予想を上回る相談件数を達成した。</li> <li>・新しい遺伝子検査装置を導入し、院内で迅速に検査を実施し、診断が行える体制を整備した。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島がん高精度放射線治療センター(10月開設予定)との連携</li> </ul>  <p>H26.6.15 がん専門医よろず相談所の開設 (桑原前院長、児玉先生、板本副院長)</p>

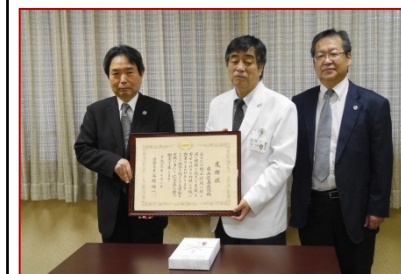


# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ④ 地域医療への貢献

	H25	H26
自己評価	◎	○
委員評価	◎	○

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○地域医療連携の推進</p> <p>・救急・専門医療に関する支援や、高度医療機器の共同利用などを通じた支援の拡充を図る。</p> <p>・情報システムを活用し、地域の医療機関と診療情報の共有を図る。</p>	<p>○指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師同伴の医療機関訪問件数:120件(+105件)</li> <li>・紹介率, 逆紹介率 紹介率:87.8%(+5.0P), 逆紹介率:90.9%(+10.2P)</li> </ul> <p><b>・KBネット接続累計接続機関数201機関</b></p> <p>○近隣医療機関との連携に関する取組</p> <p><b>・新連携機関証の発行開始(9/1～) 発行数:1,750機関</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※連携先診療所から県立広島病院との連携を表す表示が欲しいとの要望を受けて発行</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区医師会との懇談会の開催             <ol style="list-style-type: none"> <li>①広島市西区(6/27) 医師会参加者27人</li> <li>②広島市東区(11/21)医師会参加者37人</li> <li>③広島市中区(2/20) 医師会参加者50人</li> </ol> </li> <li>・病診連携カンファレンスの開催             <ol style="list-style-type: none"> <li>①NICU研修会(5/19)参加者97人</li> <li>②脳卒中もみじネット(5/19)参加者59人</li> </ol> </li> </ul> <p>○近隣県立病院間との連携に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西中国県立中央病院情報交換会へ参加(10/9) 会場:島根県立中央病院</li> <li>※島根県立中央病院, 県立広島病院, 山口県立総合医療センター間で相互協力協定を締結。(H24.8.12)</li> </ul> <p><b>・看護師1人を三病院間で相互に派遣(2/16～2/27) テーマ:救急看護</b></p> <p>○その他</p> <p><b>・法務大臣からの感謝状を受領(6/16)</b></p> <p>※広島刑務所の収監者に対する診療を長年にわたり担当してきたことに対し、矯正行政への協力として評価されたもの</p> <p>○医療人材の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の派遣</li> <li>JA尾道総合病院, 市立三次中央病院, 神石高原町立病院などへ延べ45回派遣</li> <li>・看護師の派遣</li> <li><b>市立三次中央病院へ看護師2名を派遣(1年間)</b></li> </ul>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KBネットについて, 新規の接続医療機関数は前年度を下回ったが, 累計で200機関を突破した。</li> <li>・地区医師会との懇談会を3回開催し, 交流を深めることができた。</li> <li>・西中国県立中央病院間の協定に基づく具体的な試みとして, 看護師の相互派遣を実現した。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後方病院との連携強化</li> <li>・KBネットの更なる利便性の向上</li> <li>・HMネットへの接続準備</li> </ul>




H26.6.16 法務大臣の感謝状受領  
(広島刑務所所長, 桑原前院長, 広島刑務所医務部長)

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ⑤ 医療の安全と質の向上

	H25	H26
自己評価	◎	○
委員評価	○	○

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○医療安全の確保</p> <p>・地域の医療機関と連携した院内感染対策に取り組み、医療事故の防止に努める。</p>	<p>○医療安全対策に関する取組</p> <p>①院内での取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全に係る研修会 合計26回実施、参加者数4,508人</li> <li>・セーフティマネージメントニュースの発行(毎月) ・医療安全管理部職員による職場巡回</li> </ul> <p>②近隣他病院との取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島医療安全管理者ネットワーク会議の開催 2回開催(7/2,2/20)</li> <li>※広島県内500床以上の急性期病院で構成するネットワーク会議</li> </ul> <p>○感染症対策に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症に関する研修会の実施 30回、延参加者数3,245人、感染症対策委員会年12回開催</li> </ul>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全について、医療事故分析・改善策の周知を実施、評価の実践ができた。</li> <li>・臨床指標に関する全国単位の事業に参加することができた。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故報告制度への対応</li> <li>・病棟薬剤業務の開始</li> </ul>
<p>○電子カルテ、クリニカルパスの活用</p> <p>・電子カルテの活用により、クリニカルパスの適用を促進し、診療情報の積極的な提供や臨床指標の公表を行う。</p> <p>・診療情報に関するデータを活用し、医療の質の向上のための分析を行う。</p>	<p>○指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クリニカルパスの運用状況</li> <li>入院患者全体のクリニカルパス適用率 43.94%(-1.07P)</li> </ul> <p>○取組</p> <p><b>・全国自治体病院協議会主催「医療の質の評価・公表事業等推進病院」への参加</b></p> <p><b>3か月ごとに病院の臨床データを全国自治体病院協議会へ提出。</b></p> <p><b>提出したデータに基づき「臨床評価指標」を作成し、PDF版を病院ホームページで公開。</b></p>	
<p>○チーム医療の充実</p>	<p>・多職種からなる次の6チームが院内で横断的に活動し、該当の項目について診療報酬を算定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 緩和ケアチーム :がん患者に対する疼痛管理、精神的な支援など</li> <li>2 栄養サポートチーム :患者の栄養状態の改善</li> <li>3 褥瘡管理チーム :褥瘡の予防、発生時の支援、マットレスの管理など</li> <li>4 糖尿病チーム :糖尿病教育入院、外来糖尿病教室、フットケア外来など</li> <li>5 摂食・嚥下チーム :口腔ケア、摂食嚥下療法、嚥下造影検査など</li> <li>6 呼吸器ケアチーム :人工呼吸器の管理、脱着後の患者さんへの指導など</li> </ol> <p><b>・病棟詰所の表示変更(「ナースステーション」から「スタッフステーション」へ)</b></p> <p><b>病棟には看護師だけでなく、医師、薬剤師、リハビリ技師、臨床工学士も常駐していることから表示を変更</b></p>	
<p>○治験・研究への取組を進め、医療水準の向上に貢献</p>	<p>○治験の推進体制、取組実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医師1人、薬剤師1人、看護師1人、事務職員1人</li> <li>・治験24(-6)件、製造後市販後調査95(-24)件、副作用報告8(+3)件、自主研究32(-1)件</li> </ul>	 <p>病棟詰所の表示変更</p>

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ⑤ 医療の安全と質の向上



取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
○改善活動	<p><b>改善活動の本格実施に向けた準備</b></p> <p>○ <b>改善活動の実施に向けた準備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>バージニア・メイソン病院生産方式を参考に、平成27年度から本格的に改善活動に取り組むこととして、準備室を設置し次年度以降の活動計画について検討</u></li> <li>・ <u>平成27年度からは、改善推進部を設置し、TQM活動、5S活動、VMPS活動を柱として改善活動を実施する予定。</u></li> <li>・ <u>TQM活動については、平成27年度の活動チームを編成。(12チーム、計65人)</u></li> </ul> <p>※TQMサークル活動: 5~6人のサークルメンバーが協力して、QC手法を用いて、身近な業務上の課題の解決に取り組むことにより、QCの問題解決の手法を取得し、自発的に改善に取り組むことができる能力の向上を図るもの。</p> <p><b>QC的問題解決の手順…現状把握⇒目標設定⇒要因解析⇒対策の検討・実施⇒効果の確認</b> <b>といった確立された手順を用いて問題を合理的に解決する手法</b></p> <p>※ 5S活動: 整理、整頓、清掃、清潔、躰を推進することにより、スペースの有効活用、業務効率の向上、ミス・事故の防止などを図るもの。</p> <p>○ <b>主な取組実績</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>バージニア・メイソン病院KAIZENセミナーへの職員派遣(H26.8.4~5:4名)</u></li> <li>・ <u>榊原生飯塚病院VMPSセミナーへ13名参加(H26.11.7~8)</u></li> <li>・ <u>県立広島病院 TQM導入研修会(H27.3.7)</u></li> </ul>	<p>■ 自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度からの改善活動の本格実施に向けて、改善推進室の設立準備、TQMサークルの編成など、概ね必要な準備を行うことができた。</li> </ul> <p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改善活動を病院の組織風土として定着させ、職員の理解を向上させるための研修等の実施</li> </ul>
○三強化分野以外の医療の質の向上への取組	<p>○指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5大がん地域連携パス適用患者数 205件(前年度同数)※再掲</li> <li>・脳卒中クリニカルパス適用患者数: 100件(+10件)</li> </ul> <p>○その他の医療機能強化に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>リウマチ科、形成外科の設置(4/1~)</u></li> <li>・<u>高気圧酸素治療器の設置(2/22) 平成27年4月1日から治療開始 入院の突発性難聴に対応</u></li> </ul>	 <p>H26.8.4 バージニアメイソン病院訪問 Dr.オテロ(中心)と派遣職員4名</p>

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ⑥ 患者サービスの向上

	H25	H26
自己評価	◎	○
委員評価	○	○

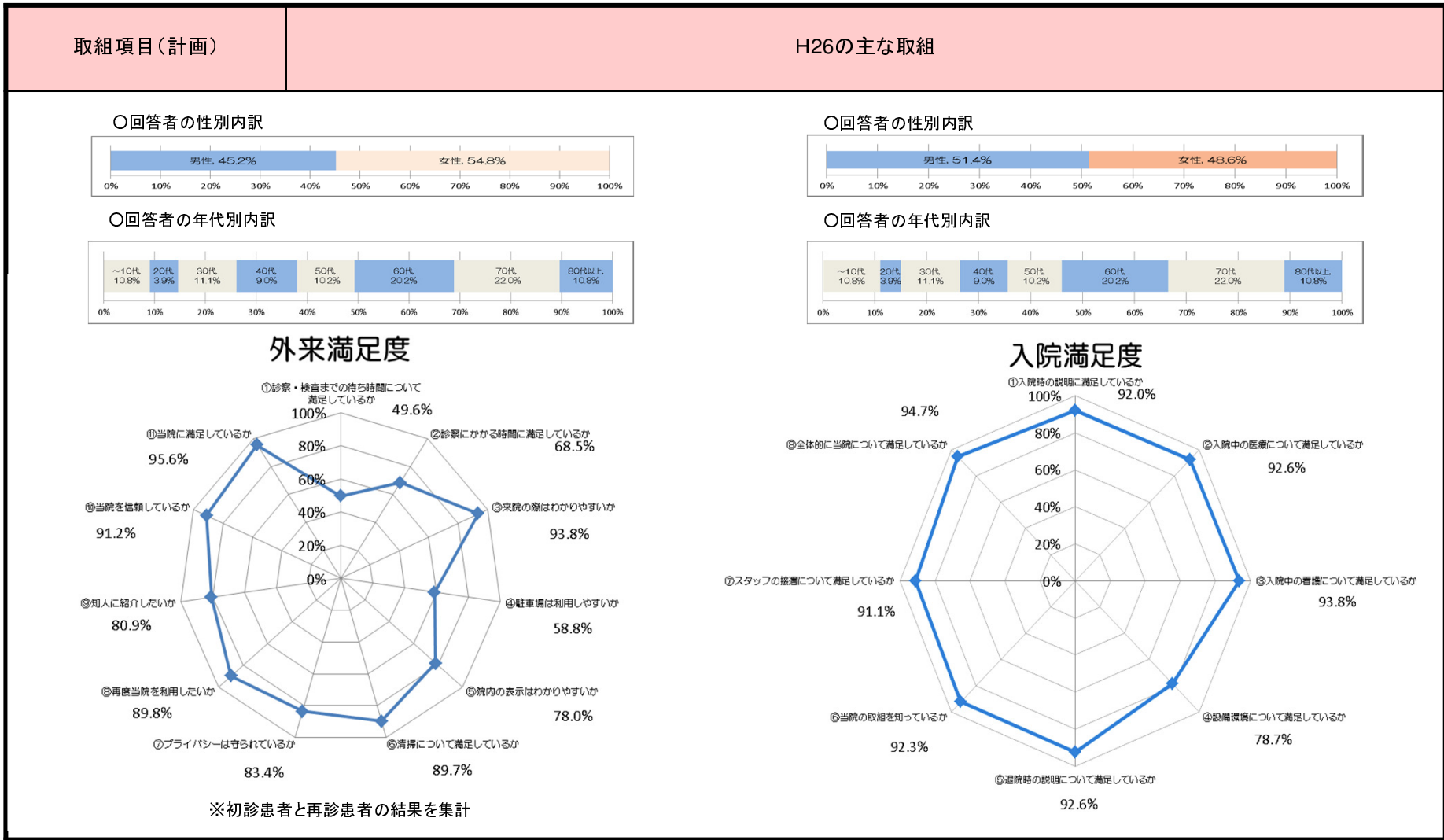
取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価															
<p>○利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子カルテの活用、診療時間の見直しなどにより、駐車場不足への対応や待ち時間の短縮を図る。</li> <li>療養環境改善のため、設備、病室の改修を行う。</li> </ul>	<p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>・駐車場不足解消のため無料送迎バス運行へ向けた準備</b></li> <li><b>・予約時間に診療できるよう予約診療方式の変更</b></li> <li><b>患者数の多い内科:A受付、外科:B受付について予約枠を1時間単位から15分単位へ変更</b></li> <li>・南5病棟トイレ(2室)・浴室改修工事(1室)、緩衝床整備工事(12室)、個室改修工事(22室)を実施</li> </ul>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の患者アンケート結果を踏まえ、待ち時間短縮へ向け予約診療の方式を変更した。</li> <li>・療養環境改善のため、南棟を中心として改修工事を実施した。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者満足度アンケートにより、「待ち時間」「駐車場」「院内表示」などの課題が明確になったため、更に改善に取り組む必要がある。</li> </ul>															
<p>○広報の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HPや広報誌、出版物を活用し、病院の機能や活動内容を積極的に公開する。</li> <li>患者、地域住民を対象とした講演会の開催や各種行事等への参画により、医療情報の発信に努める。</li> </ul>	<p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域巡回講演会の開催28回(昨年度同数)</li> <li>職員が地域の公民館などへ出向き、疾病の予防や最新の治療内容などについて講演するもの</li> <li>・地域健康フォーラムの開催「意外と知らない肺の病気」(10/4)</li> <li>広島市南区医師会、広島市南区地域保健対策協議会との共催</li> <li>・脳心臓血管センター一般県民向け講演会「あなたの血管は大丈夫？」の開催(11/29) ※再掲</li> </ul>																
<p>○患者ニーズ等への的確な対応と患者支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者アンケートの定期的実施や患者意見書への対応状況の公表を行い、患者満足度の向上に努める。</li> <li>相談窓口の活用等により、患者及び家族の相談に積極的に対応。</li> </ul>	<p>○平成26年度実施 患者満足度調査の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象患者を入院患者、外来患者(初診、再診)へ分けて実施、集計。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>入院患者</th> <th>外来患者(初診)</th> <th>外来患者(再診)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査期間</td> <td>H27.2.1~2.28</td> <td>H27.2.2~2.27</td> <td>H27.2.10及び2.20の2日間</td> </tr> <tr> <td>対象患者</td> <td>調査期間中に退院した患者</td> <td>期間中の初診患者</td> <td>期間中の再診患者</td> </tr> <tr> <td>回答数</td> <td>332人</td> <td>689人</td> <td>779人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の内容については、24ページ参照。</li> </ul> <p>○入院サポートシステム開始へ向けた試行の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PFMの試行運用、入院サポートナースの配置(地域連携センター)</li> <li>※PFM:Patient Flow Management:患者さんの入院から退院までの流れを円滑にする方式</li> </ul>		区分	入院患者	外来患者(初診)	外来患者(再診)	調査期間	H27.2.1~2.28	H27.2.2~2.27	H27.2.10及び2.20の2日間	対象患者	調査期間中に退院した患者	期間中の初診患者	期間中の再診患者	回答数	332人	689人
区分	入院患者	外来患者(初診)	外来患者(再診)														
調査期間	H27.2.1~2.28	H27.2.2~2.27	H27.2.10及び2.20の2日間														
対象患者	調査期間中に退院した患者	期間中の初診患者	期間中の再診患者														
回答数	332人	689人	779人														



H26.10.4 地域健康フォーラムの開催「意外と知らない肺の病気」

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ⑥ 患者サービスの向上



# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ⑥ 患者サービスの向上



取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価																																								
<p>○患者ニーズ等への的確な対応と患者支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者アンケートの定期的実施や患者意見書への対応状況の公表を行い、患者満足度の向上に努める。</li> <li>・相談窓口の活用等により、患者及び家族の相談に積極的に対応。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">○患者さんとの集い開催状況</p> <table border="1" data-bbox="607 480 1585 906"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>集いの名称</th> <th>活動の概要</th> <th>主催部署</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>バンビの会</td> <td>NICU退院児の家族交流会</td> <td>NICU, 新生児科</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>きりんさんの会</td> <td>在宅医療を行っている子どもを持つ家族の会</td> <td>NICU, 新生児科</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>びあチアーズ</td> <td>脳卒中患者・家族の会</td> <td>看護部, 南2, 西8</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>糖尿病患者さまの集い</td> <td>糖尿病患者と家族の集い</td> <td>糖尿病チーム</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>元気の会</td> <td>小児慢性腎不全の子どもと家族の集い</td> <td>東7, 小児科</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>もみじの会</td> <td>小児糖尿病患者さんとのサマーキャンプ</td> <td>東7, 小児科</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ウロストメイト患者会</td> <td>オストミー協会会員、ウロストミー患者と家族の集い</td> <td>西5, 泌尿器科</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>がんサロン</td> <td>院内外を問わず、がん患者とその家族の集い</td> <td>地域連携科</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>茶話会</td> <td>緩和ケア病棟で亡くなられた患者さんの遺族の集い</td> <td>緩和ケア</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="638 954 958 978" style="text-align: center;"> <p>○きりんさんの会 H27.1.28開催</p>  </div> <div data-bbox="1146 954 1435 978" style="text-align: center;"> <p>○がんサロン H26.8.26開催</p>  </div> </div>	No.	集いの名称	活動の概要	主催部署	1	バンビの会	NICU退院児の家族交流会	NICU, 新生児科	2	きりんさんの会	在宅医療を行っている子どもを持つ家族の会	NICU, 新生児科	3	びあチアーズ	脳卒中患者・家族の会	看護部, 南2, 西8	4	糖尿病患者さまの集い	糖尿病患者と家族の集い	糖尿病チーム	5	元気の会	小児慢性腎不全の子どもと家族の集い	東7, 小児科	6	もみじの会	小児糖尿病患者さんとのサマーキャンプ	東7, 小児科	7	ウロストメイト患者会	オストミー協会会員、ウロストミー患者と家族の集い	西5, 泌尿器科	8	がんサロン	院内外を問わず、がん患者とその家族の集い	地域連携科	9	茶話会	緩和ケア病棟で亡くなられた患者さんの遺族の集い	緩和ケア	<p>■課題 集いの継続と内容充実</p>
No.	集いの名称	活動の概要	主催部署																																							
1	バンビの会	NICU退院児の家族交流会	NICU, 新生児科																																							
2	きりんさんの会	在宅医療を行っている子どもを持つ家族の会	NICU, 新生児科																																							
3	びあチアーズ	脳卒中患者・家族の会	看護部, 南2, 西8																																							
4	糖尿病患者さまの集い	糖尿病患者と家族の集い	糖尿病チーム																																							
5	元気の会	小児慢性腎不全の子どもと家族の集い	東7, 小児科																																							
6	もみじの会	小児糖尿病患者さんとのサマーキャンプ	東7, 小児科																																							
7	ウロストメイト患者会	オストミー協会会員、ウロストミー患者と家族の集い	西5, 泌尿器科																																							
8	がんサロン	院内外を問わず、がん患者とその家族の集い	地域連携科																																							
9	茶話会	緩和ケア病棟で亡くなられた患者さんの遺族の集い	緩和ケア																																							



## II 人材育成・確保・派遣機能の強化

### ⑦ 医療人材の育成・確保・派遣

	H25	H26
自己評価	○	◎
委員評価	○	◎

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○医師の育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研修プログラムの充実を図り、県外からの医師確保にも積極的に取り組む。</li> <li>高齢者医療、地域医療に対応できる総合診療医を育成する。</li> <li>医師事務作業補助者の配置等により、負担軽減を図る。</li> <li>連携する医療機関との共同研修や共同診療、施設のオープン化など、医療資源・機能を最大限活用する。</li> <li>専門医の育成に取り組む。</li> <li>院内保育所の充実、短時間勤務制度の活用など女性医師の復職支援体制を整える。</li> </ul>	<p>○指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度初期臨床研修マッチングの状況:定員16人(2人増) →マッチング者数16人 8年連続フルマッチ:100%</li> <li>◇広島県内全体のマッチングの状況 148人/210人:70.4%</li> <li>・初期臨床研修医の広島県内への転出先割合:県全体:平均80.9%, 当院84.8%(直近3年間) <small>(広島県全体平均は平成24年度医師確保専門対策委員会資料、当院は直近3年間初期臨床研修修了者数から算出)</small></li> <li>・後期研修医の派遣 腎臓内科医師を県立安芸津病院へ派遣(3か月間)</li> <li>・医師事務作業補助者の配置63人→医師事務作業補助体制加算1&lt;15対1&gt;</li> </ul> <p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島卒後臨床研修ネットワーク説明会へ参加、レジナビ大阪へ参加 H26.7</li> <li>・医師の負担軽減への取組 <b>宿直明け医師の負担軽減:翌日勤務時間の短縮化(8/1~)</b></li> <li>・「ママ友会の開催」2回開催(10/22:23人, 3/4:15人) ※育児休業中職員による子育てや仕事についての意見交換会</li> </ul>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修医について定員16人を充足し、8年連続フルマッチを達成した。</li> <li>・医師の負担軽減について、新しい取組を実施した。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい専門医制度への対応</li> <li>・更なる医学生の教育への協力</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修・指導活動や医学生の実習受入れに積極的に取り組む。</li> <li>専任指導医を適切に配置するとともに、学会、セミナー等への参加機会を拡充する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学生の見学受入れ状況 4年生:5回, 5年生:74回, 6年生:27回 合計:106回 ※延べ受入回数</li> <li>・研究研修費の状況 H26決算額:133,504千円 ■参考 医業収益に対する研究研修費比率の状況~近隣自治体立病院との比較(H25) ※収益を研究研修の形で職員にどの程度還元しているかを表す。 <b>県立広島病院 0.62%(H25)</b> 広島市民病院0.25%, 安佐市民病院0.33%, 福山市民病院0.39%, 島根県立中央病院0.59% &lt;平成25年度公営企業年鑑データから算出&gt;</li> <li>・海外での学会発表(医師) 平成26年度15件 米国呼吸器学会(ATS2014):サンチアゴ, 米国臨床腫瘍学会(ASCO2014):シカゴなど</li> </ul>	

## II 人材育成・確保・派遣機能の強化

### ⑦ 医療人材の育成・確保・派遣


取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価																																																		
<p>○看護師等コメディカルの確保・育成</p> <p>・認定・専門資格などを有する看護師、薬剤師、診療放射線技師等を計画的に養成する。</p>	<p>○指標</p> <p>①認定看護師の状況</p> <p>H27.7.7現在</p> <table border="1" data-bbox="622 512 1547 628"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>集中ケア</th> <th>救急</th> <th>手術室</th> <th>緩和ケア</th> <th>がん性疼痛</th> <th>がん化学療法</th> <th>乳がん</th> <th>がん放射線</th> <th>新生児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <th>分野</th> <th>小児救急</th> <th>不妊症</th> <th>皮膚排泄ケア</th> <th>感染管理</th> <th>摂食嚥下</th> <th>脳卒中リハビリ</th> <th>認知症</th> <th>透析</th> <th>慢性心不全</th> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td colspan="9" style="text-align: right;">合計</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>・H26新規資格取得分野:がん化学療法、不妊症、透析          ※広島県全体の認定看護師数 370人 H27.1.20現在</p> <p>②看護師の離職率</p> <p>県立広島病院 6.9% 全国500床以上病院の平均 10.3%          うち、新人看護師の離職率          県立広島病院 1.8% 全国500床以上病院の平均 6.9%          &lt;全国の状況は日経ヘルスケア2015年5月号記事から&gt;</p> <p>③看護補助者の設置 一般病棟急性期看護補助体制加算 H24.10～ 50対1</p> <p>④コメディカル職員の専門資格取得の状況</p> <p>※薬剤師:1人(がん薬物療法認定薬剤師)、臨床検査技師:3人(細胞検査士など)、診療放射線技師:該当者なし</p>	分野	集中ケア	救急	手術室	緩和ケア	がん性疼痛	がん化学療法	乳がん	がん放射線	新生児	人数	3	2	1	4	2	3	1	1	3	分野	小児救急	不妊症	皮膚排泄ケア	感染管理	摂食嚥下	脳卒中リハビリ	認知症	透析	慢性心不全	人数	1	1	3	2	2	1	1	1	1	合計									33	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や他施設でも活躍する認定看護師を3名を育成できた。</li> <li>・他施設の職員の受け入れや自院の職員を地域へ派遣するなど医療人材面での支援を行うことで県内の医療水準の維持向上に貢献できた。</li> <li>・地域の需要に応じて看護師の派遣を開始することができた。</li> </ul>
分野	集中ケア	救急	手術室	緩和ケア	がん性疼痛	がん化学療法	乳がん	がん放射線	新生児																																											
人数	3	2	1	4	2	3	1	1	3																																											
分野	小児救急	不妊症	皮膚排泄ケア	感染管理	摂食嚥下	脳卒中リハビリ	認知症	透析	慢性心不全																																											
人数	1	1	3	2	2	1	1	1	1																																											
合計									33																																											
<p>・地域の医療従事者向け実務研修を積極的に主催する。</p> <p>・実習教育の受け入れを積極的に行う。</p>	<p>①地域の医療従事者向け実務研修(主なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用看護師研修(4/11,4/23:2回開催) ・がん医療従事者研修会(5/8,7/31,10/16,1/22:4回開催)</li> <li>・救命救急士対象「プレホスピタル脳心臓血管症例検討会」の開催※再掲</li> </ul> <p>②実習教育の受入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救命救急士の実習受入 H26:61人受入</li> <li>・NST専門療法士研修会 院外参加者:9人(参加職種:看護師、管理栄養士、臨床検査技師、薬剤師)</li> <li>・広島県新人看護職員研修事業 H26:19人受入(医療機関数:4)</li> <li>・広島県看護職員復職支援事業 H26:2人受入</li> </ul>	<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣に関する職員数の確保</li> <li>・看護師の離職防止対策</li> </ul>																																																		
<p>○医療人材の派遣等</p> <p>・地域での講演会への職員講師派遣を通して医療人材の育成に貢献する。</p> <p>・へき地医療拠点病院として、中山間地域の医師不足・看護師不足対策に取り組む。</p> <p>・専門有資格者等の確保が困難な医療機関への支援を充実させる。</p>	<p>①講演会などへの職員派遣の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師の講師派遣 合計:111回 他の医療施設などから講師派遣依頼を受託し、認定看護師を中心として派遣</li> </ul> <p>②へき地医療拠点病院としての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三原市大和診療所へ代診医の派遣 6回</li> </ul> <p>③他医療機関への支援の取組(一部再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の診療応援 JA尾道総合病院、市立三次中央病院、神石高原町立病院などへ延べ45回派遣</li> <li>・<b>看護師の派遣を開始(市立三次中央病院):1年、2人</b></li> <li>・助産師の派遣(香月産婦人科):6か月、1人</li> </ul>																																																			



### Ⅲ 危機管理対応力と経営力の強化

#### ⑦ 危機管理対応力の強化

	H25	H26
自己評価	—	◎
委員評価	—	◎

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○災害・感染症対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練・研修の実施などによる危機管理対策に取り組む。</li> <li>・災害時や感染症発生時に情報収集・共有を迅速に行うため、地域医療機関等との連携を強化する。</li> <li>・津波による浸水被害想定を踏まえ、計画的な施設整備に努める。</li> </ul>	<p>○災害発生対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>東日本大震災を踏まえた災害マニュアルの改定(8月改定)</b></li> <li>・<b>同マニュアルが日本集団災害医学会「病院災害対策マニュアル・コンペティション」にて「会長賞」を受賞(2/27)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>→病院が被災したレベルを4類型に分類し、その類型に応じた対応を記載していることが高い評価を受けた。</li> </ul> </li> <li>・院内災害訓練の実施(1/21) 院内プレーヤー57人、見学者14人(南区医師会から2名参加)</li> <li>・非常用自家発電機の屋上設置           <ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度設計 平成26年度～27年度で工事実施(平成28年3月完成予定)</li> </ul> </li> <li>・<b>電子カルテデータの多段階BCP対策の構築(H27年3月)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>※データのバックアップを遠隔地に保存するなど、被災の段階に応じたシステム運用継続対策を構築</li> </ul> </li> </ul>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島市安佐南区で発生した大規模土砂災害事案について、DMAT隊を2隊派遣し、基幹災害拠点病院としての役割を果たすことができた。</li> <li>・マニュアルの見直し、災害対応訓練を実施し、地区医師会など多くの見学者が参加した。</li> <li>・防災対策に必要な設備を整備した。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南海トラフ地震などを想定し非常用自家発電機の屋上設置、衛生屋外アンテナ設置工事など更なる災害対応機能の充実</li> <li>・DMAT隊の人材確保・育成、災害対策訓練の継続実施</li> </ul>
<p>○DMAT隊を育成・研修を継続し、迅速に対応可能な体制を維持する。</p>	<p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立広島病院DMAT(3チーム編成可能:県内最多のチーム数)           <ul style="list-style-type: none"> <li>◇構成:医師6人, 看護師7人, その他の職種5人(診療放射線技師, 臨床工学技士, 事務職員)</li> </ul> </li> <li>・育成研修へ参加           <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度第2回中国・四国ブロック統括DMAT登録者技能維持・ロジスティックス研修</li> <li>平成26年度第2回NBC災害・テロ対策研修 など</li> </ul> </li> <li>○「平成26年8月20日の豪雨災害」への対応           <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>県立広島病院 DMAT2チーム(14人)が災害現場へ出動。</b></li> <li>・<b>院内は、「災害モード」を宣言し、被災者の受入れに備えるため一部の外来診療と手術を中止。</b></li> <li>・<b>一部被災者を病院へ受入れ。</b></li> <li>・<b>山野上救命救急センター長が広島県の調整本部長を担当。</b></li> <li>・<b>当院の災害支援ナース2人が出動。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>※「災害支援ナース」:被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるよう努めるとともに、被災者が健康レベルを維持できるように、被災地で適切な医療・看護を提供する役割を担う看護職で、各都道府県の看護協会に登録。(当院は9人が登録)</li> </ul> </li> <li>・<b>土砂災害発生時の対応に関する反省会を院内で開催。(9/8)</b></li> </ul> </li> <li>○DMATとしての出動ではないが、基幹災害拠点病院として患者を受け入れた事例           <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>H26.7.24 北広島町有毒ガス発生事故(産業廃棄物処理工場で有毒な硫化水素ガスが発生)</b></li> </ul> </li> </ul>	 <p>H26.7.24 北広島町有毒ガス発生に係る患者受入</p>

### Ⅲ 危機管理対応力と経営力の強化

#### ⑨ 経営力の強化

	H25	H26
自己評価	○	○
委員評価	○	○

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○情報共有とPDCA</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念、経営目標、経営情報、目標数値等を共有する。</li> <li>・医療需要の把握、経営分析、クリニカルパスの見直しなどにより、経営の効率化を図る。</li> <li>・院内研修を通して、医療環境や経営に関する情報や知識の共有化を図る。</li> </ul>	<p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>新規入院患者の確保に関する院長による診療科ヒアリング実施 41回(10/10～1/21)</b></li> <li>・<b>院長・事務局長と主要委託業者との面談を実施(平成26年12月～平成27年2月)</b>  <b>※清掃、医事、給食、電話交換など患者サービスに直結し、委託業者職員が病院内に常駐させている主要業者と病院管理者間で、病院の経営方針、業務内容、業者側からの病院に対する要望などについて直接意見交換の場を設定。◇13社と面談。</b></li> <li>・<b>全国自治体病院協議会主催「医療の質の評価・公表事業等推進病院」への参加</b>  <b>3か月ごとに病院の臨床データを提出。(再掲)</b></li> <li>・<b>広島病院事務局転入者に対する病院施設管理業務研修会の開催(4/18)</b></li> <li>・特定非営利法人 日本医療経営機構 医療経営人材育成プログラムへ副院長級職員参加(1人)</li> <li>・職員意識調査の実施(H27年2月) 回答数864人 調査結果:「活性化型組織」</li> </ul>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者サービスの向上のため委託業者職員も含め病院内に勤務する職員との情報共有と意識統一を図る面談を実施した。</li> <li>・新しい医療の実施、機能強化のため必要な施設整備、器械備品の購入を行った。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線治療器、人工透析装置など高額医療機器の更新</li> <li>・電子カルテの更新(端末機の増設)</li> </ul>
○情報処理技術の活用	<p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテ機能の向上のためレベルアップ作業を完了(12/20)</li> <li>・セキュリティ対策                      ログインパスワードの規制強化:設定したパスワードの有効期間の短縮化と最低文字数の引上げ</li> </ul>	
○事務部門の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>病院事業局新財務会計システムの運用開始(3/26～):新会計制度へ対応</b></li> <li>・診療情報管理士の採用1人(H26年4月)</li> <li>・<b>改善推進業務のため、看護職1名を経営企画担当へ配置。(H27.1～)</b></li> </ul>	
○機動的な予算執行と人材の採用等	<p>○整備・更新した医療機器(主なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血管造影CT複合型装置(放射線診断科)更新&lt;最新型&gt;</li> <li>・<b>がんの遺伝子検査装置 新規購入(臨床研究検査科)</b></li> <li>・<b>高気圧酸素治療装置 新規購入(臨床工学科)突発性難聴へ対応 (再掲)</b></li> <li>・<b>NICU3床増床向け、保育器及び人工呼吸器を増設(新生児科)</b></li> </ul>	
○弾力的な病床運営	<p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急患者受入れのため、16時現在でのHCU8床空床確保と毎朝のベッドコントロールミーティングの開催。</li> <li>・DPC入院期間Ⅲ超過患者数を減少させるため、クリニカルパスの見直し、DPC病名適正化、地域連携センターの早期介入を実施。</li> </ul>	



H27.2.24 高気圧酸素治療器の設置  
南棟1F 高気圧酸素療法室

### Ⅲ 危機管理対応力と経営力の強化 ⑩ 増収対策

	H25	H26
自己評価	◎	○
委員評価	◎	○

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○医業収益の増加策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療報酬改定や国の制度変更に対応し、各種加算の取得に努める。</li> <li>・DPC病院Ⅱ群への参入に向けて、必要な要件を充足する。</li> </ul>	<p>○指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規入院患者数 16,114人(+997人), 平均在院日数10.9日 (-1.1日)</li> </ul> <p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく算定を開始したもの  <b>ハイケアユニット入院医療管理料1(6,584点/日)平成26年10月～(東5病棟CCU:8床)</b>  <b>診療録管理体制加算1(100点)平成26年4月～</b>  <b>医師事務作業補助体制加算1&lt;15対1&gt;(860点)平成26年4月～</b></li> <li>・DPC病院Ⅱ群参入へ向けた取組                      DPCⅡ群プロジェクトチームの編成:10人(医師3人, 看護師3人, 診療放射線技師1人, 事務職員4人)                      目標:診療密度と手術指数の向上                      活動内容:チームが各診療科を巡回し、データを提供しながら各科が対応可能な事項についての具体策を説明し、要請を継続。                      →各疾病単位で在院日数が短縮化するなどにより診療密度が大きく向上。診療密度2,612点(+187点)</li> </ul>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年の診療報酬改定では、入院基本料を中心に施設基準が厳格化され、大きく増収につながる新たな算定項目の取得はなかったが、DPC病院Ⅱ群へ向けての取り組みを進め、効果が出た。</li> <li>・病棟の療養環境の改善、個室のリフォームに合わせて、料金を改定した。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・査定減対策(審査の厳格化)</li> </ul>
<p>○患者負担の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用料, 手数料の新設, 改定を実施。</li> </ul>	<p>○有料個室改修に伴う新料金の設定</p> <p><b>新特B室 7,800円(+850円), 新B室 7,280円(+1,880円)など設備改修を行った個室について改定</b></p>	
<p>○診療報酬請求の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療報酬制度の情報共有と適正な保険診療に努めるとともに、査定減対策に取り組む。</li> </ul>	<p>○指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>査定額, 査定率:26,474千円(+3,720千円), 0.136%(+0.014P)</li> </ul> <p>○取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保険診療に関する研修会の開催 講師:中国四国厚生局 山田統括指導医療官(9/26)</li> <li>・診療報酬請求対策委員会 2回開催(H26.6, H26.9)</li> <li>・レセプト点検メモ発行 2回発行(H26.7, H26.10)</li> </ul>	
<p>○未収金対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未収金の発生防止と効率的な回収対策に取り組む。</li> </ul>	<p>・回収担当の嘱託員2人を配置                      訪問・折衝による納付指導, 所在不明者や相続人の調査を実施</p> <p>・司法書士法人への回収業務委託</p> <p>・入院窓口等による高額療養費制度の利用促進</p>	

過年度未収金の推移 単位:百万円

	24年度	25年度	26年度
年度当初	192	150	146
回収額	69	34	39
前年度新規発生に対する割合	<b>121.1%</b>	<b>125.9%</b>	<b>130.0%</b>
年度末	123	116	107
新規発生	27	30	37

### Ⅲ 危機管理対応力と経営力の強化 ⑪ 費用合理化対策

	H25	H26
自己評価	○	○
委員評価	○	○

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○適正な材料・備品の購入</p> <p>・病院の機能に応じた在庫のあり方を検証し、収益性や使用効率の観点を加味した医薬品・診療材料の採用を進める。</p> <p>・後発医薬品の利用を拡大する。</p> <p>・共同購入や品目・仕様の共通化</p>	<p>○指標</p> <p>・材料費の医業収益に対する比率</p> <p>①薬品費／入院外来収益 比率16.62%(+0.94P)</p> <p>②診療材料費／入院外来収益 比率13.38%(+0.43P)</p> <p>・後発医薬品の状況</p> <p><b>・数量ベース比率60%をめざして利用を拡大 平成26年度比率全体で56.8% H27.3月比率単月では70.5%</b></p> <p>○取組</p> <p>① 高度かつ専門的な医療、新しい医療のための積極的な新規採用など</p> <p><b>・遺伝子解析装置(i-dency)導入に伴い、新試薬を採用し、他院に先駆けて検査を開始。</b></p> <p><b>・患者数の増加やDPC病院Ⅱ群の参入を目指し、診療密度向上のため検査件数が増加したことにより、試薬(血糖測定、腫瘍マーカーなど)の消費額が増加。</b></p> <p><b>・がんの化学療法の増加により抗がん剤の消費額が増加。(例:アバステン、ハーセプチンなど)</b></p> <p>② 費用節減が目的の見直し・切替</p> <p>・ペースメーカーを病院主導の発注とする購入ルールを定め、メーカーを競合させることによって費用削減効果が発現。(効果額 年間2,283千円 135台分)</p> <p>・ニトリルグローブの価格値上げを機に、同等品との比較検討を行い、より安価な同等品に切り替えを実施。(効果額 年間4,362千円 約700万枚分)</p> <p><b>・職員提案により、人工呼吸器の加温用水を専用水から注射用水に切り替え費用を削減。(約342万円)</b></p> <p>・後発医薬品の採用</p> <p><b>注射薬から内服薬まで対象範囲を拡大。</b></p> <p>※切替の例 ロキソニン錠60mg → ロキソプロフェンNa錠60mg「サワイ」          ガスターD錠20mg → ファモチジンD錠20mg「EMEC」          ノルバスク錠5mg → アムロジピンOD錠5mg「EMEC」</p>	<p>■自己評価理由</p> <p>・高度かつ専門的な医療、新しい医療の提供のため抗がん剤と検査試薬を中心として高額な薬品の採用をしながら、一方で従来から使用している薬品について後発品への切替を積極的に推進した。</p> <p>・水道料金について大幅な節減を実現した。</p> <p>■課題</p> <p>・高度医療・新しい医療の推進のための新薬、新材料の採用と経済的なバランスの両立</p> <p>・更なる省エネルギー化、光熱水費の縮減</p>
<p>○経費の見直し</p> <p>・委託内容、契約方法の見直しを進める。</p> <p>・光熱水費などの節約や、省エネルギー対策を推進。</p>	<p>○光熱水費の節約、省エネルギー対策</p> <p><b>・病院の植栽、植木への散水方法を見直すことで、25,485千円(-17.8%)の水道代を節減し、消費税率アップにもかかわらず、光熱水費を前年度と同様に499百万円にとどめた。</b></p> <p>○委託契約の見直し</p> <p>・X線撮影装置など放射線関連機器の保守委託契約を集約し、約10,912千円を削減。</p>	

IV 連携強化 ⑫ 2病院の協力状況

	H25	H26
自己評価	○	○
委員評価	○	○



取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
○医薬品の共同購入	○医薬品の共同購入, 品目共通化への取組 医薬品について, 安芸津病院と共同して購入契約	<p>■自己評価理由 従前からの取り組みを継続した。</p> <p>■課題 ・遠隔画像診断 ・病理診断連携</p>
○医療機能維持・質の向上への協力	<p>・医師の派遣 循環器内科(毎日), 呼吸器内科(月1回)派遣</p> <p>・<b>コンビニエンスストアの共同入札</b> <b>単独では設置困難なコンビニエンスストアを安芸津病院に設置するため, 2病院共同で公募型プロポーザルを実施。</b></p> <p>・広島病院臨床工学技士による支援 ①技士が安芸津病院へ出向いた医療機器の整備・点検作業(H26.6.月及び12月) 人工呼吸器, AED等を点検 推定費用削減額: 1,376千円 ②集合研修の実施 研修テーマ: 輸液ポンプ・シリンジポンプの取扱い, 危険なME機器使用 ③安芸津病院からの機器郵送による広島病院内での保守・点検作業 輸液ポンプ・シリンジポンプ, 低圧持続吸引器などを点検, 推定費用削減額: 853千円</p> <p>・県立病院看護研究発表会を共催(10/18)</p> <p>・安芸津病院からの支援 小児循環器専門医師を広島病院へ週1回派遣(毎週水曜日午後)</p>	

V 決算・目標指標 ⑬ 収支改善・目標指標の達成

	H25	H26
自己評価	◎	○
委員評価	◎	○

取組項目(計画)	数値目標	取組結果(H26)	達成状況	課題・今後の取組
1. 新規入院患者数	16,200人/年	<b>16,114人</b>	未達成	<p>○課題・特記事項</p> <p>・新会計制度の開始, 消費税の増税, 診療報酬改定, 給与カット復元措置など大きな外部環境の影響を受けながらも, 引き続き経営改善に努めた結果, 経常収支の黒字を達成できた。</p> <p>○今後の取組</p> <p>・計画で掲げる経営目標の達成へ向けて引き続き経営改善に取り組むとともに, 地域医療構想の動きに対応しながら, 広島県の医療水準の維持向上のため, 県の基幹病院としての役割を果たす。</p>
2. 平均在院日数	12.0日	<b>10.9日</b>	☆ 達成	
3. 紹介率	78%	<b>87.8%</b>	☆ 達成	
4. 逆紹介率	78%	<b>90.1%</b>	☆ 達成	
5. 救急車受入数	5,120台/年	<b>4,931台</b>	未達成	
6. NICU・GCU患者受入数	8,800人/年	<b>8,790人</b>	未達成	
7. がん患者数	3,700人/年	<b>4,223人</b>	☆ 達成	
8. 全身麻酔手術件数	4,180件/年	<b>4,093件</b>	未達成	
9. 看護必要度を満たす患者の割合	年平均17.6%	<b>20.6%</b>	☆ 達成	
10. 前期臨床研修医受入数	32名 (28年度)	<b>33名</b>	☆ 達成	
11. 経営に関する指標	経常収支の黒字	<b>155,768千円</b>	☆ 達成	



# 県立安芸津病院

1 評 価 表

2 具体的取組状況

(H26)

# 平成26年度の取組状況

## 1 安芸津病院評価表

### 1 具体的取組

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価	委員意見
<b>1 医療機能の強化と患者サービスの向上</b>						
1	医療提供体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医療機能の充実</li> <li>○地域医療機関との連携</li> <li>○小児医療、2次救急医療体制の維持・運営</li> <li>○在宅療養支援</li> <li>○人間ドック・がん検診等の受入強化</li> <li>○地域との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域包括ケア病床の運用を開始し、必要な人員を配置</li> <li>○安芸津地域ケア会議に参画するなど関係機関と連携</li> <li>○広島病院、広島大学からの医師派遣を含め、小児医療、2次救急医療など政策医療機能を維持</li> <li>○退院前訪問、訪問看護、訪問診療の継続実施</li> <li>○人間ドック・がん検診の受入強化</li> <li>○地域の関係団体への参画、地域行事へ積極的に参加</li> </ul>	◎	◎	地域包括ケア病床の設置、訪問診療・訪問看護等の在宅療養支援、地域の医療機関や行政機関、地域団体との連携強化など、地域包括ケアシステムの構築とその後方支援機能の充実に向けてしっかりと取り組んでおり、高く評価できる。
2	医療の安全と質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医療安全の確保</li> <li>○医療の質の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医療安全対策委員会、セーフティマネジメント部会の開催</li> <li>○医療安全研修会の開催</li> <li>○看護の質向上委員会による院内デイクアの企画</li> </ul>	○	○	限られた人員の中で5S活動、院内ラウンド、院内デイクアなど様々な取り組みを実施していることを評価した。 今後は、病院全体としての医療の質の向上に向けて、医療チーム間の連携やクリニカルパスの効果的な活用などを検討されたい。また、全国的に誇ることができる「転倒防止対策」を、より一層充実させることを期待したい。
3	患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利便性の向上</li> <li>○患者ニーズ等への的確な対応と患者支援の充実</li> <li>○広報の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○病院利用者のサービス向上を図るため、院内コンビニエンスストアの売店事業参画を企画</li> <li>○患者アンケートや意見箱に基づいた療養環境の整備</li> <li>○医療公開講座、広報誌での情報発信</li> <li>○地域の会合での病院機能のPR</li> </ul>	○	◎	コンビニエンスストアの設置や広報誌の全戸回覧の実施など、さまざまな視点から患者サービスの向上に努めており、評価できる。 また、患者アンケートの結果からも地域に頼りにされている様子が伺われる。
<b>2 人材育成・確保・派遣機能の強化</b>						
4	医療人材の育成・確保・派遣	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医師の育成・確保</li> <li>○看護師等コメディカルの確保・育成等</li> <li>○医療人材の派遣等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○常勤医師・診療援助医師の診療体制を維持</li> <li>○理学療法士の1名増</li> <li>○看護師、理学療法士等の実習受入の継続</li> <li>○外科、整形外科、小児科医師の派遣継続による県内の医療水準向上に貢献</li> </ul>	○	○	地域の医療従事者を対象にした研修会を数多く開催していることや、限られた人員の中で医師の派遣や看護師等の実習受入を行い、地域医療に貢献していることは、評価できる。 不足している医師やPT、OTの増員を期待したい。
<b>3 危機管理対応力と経営力の強化</b>						
5	危機管理対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害・感染症対策の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○近隣医療機関で発生した集団感染症事案を踏まえ対策を徹底</li> <li>○広島市の8月豪雨災害へ看護師を派遣</li> </ul>	○	○	「インフルエンザ」アウトブレイクへの適切な対応や豪雨災害への看護師の緊急派遣は評価できる。 今後は沿岸部に位置する公立病院として、津波等を想定した避難訓練に関しても検討いただきたい。
6	経営力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報共有とPDCA</li> <li>○情報処理技術の活用</li> <li>○機動的な予算執行と人材の採用等</li> <li>○弾力的な病床運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○病院理念を踏まえた病院組織目標を設定、全職員対象に説明会の実施</li> <li>○診療報酬改正への対応としてプロジェクトチームを編成</li> <li>○電子カルテ・クリニカルパスの活用</li> <li>○地域包括ケア病床の稼働に向けて病床専従の理学療法士を先行配置</li> </ul>	○	○	地域包括ケア病床の早期稼働など、機動的な組織行動がとられている点は評価できる。 全職員が現状と課題を共有し、報告会を開催した上で改善策を検証するなど、PDCAサイクルを適切に機能させることを期待したい。
7	増収対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医業収益の増加策</li> <li>○診療報酬請求の改善</li> <li>○未収金対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手術、各種検査の増加による診療収益の増</li> <li>○時間外における未収金の発生防止対策や司法書士法人への委託による未収金回収の強化</li> </ul>	○	○	診療単価、手術件数、救急搬送受入れ件数等の増加などにより、前年度に比べ約6.5千万円の増収となっていることは評価できる。 一方で、患者数は入院・外来ともに前年度を下回っており、対策が必要。利用率の高い地域包括ケア病床の有効活用を検討されたい。
8	費用合理化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○適正な材料・備品の購入</li> <li>○経費の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○後発医薬品の利用拡大</li> <li>○複数年契約の導入や広島病院との共同によるコスト削減</li> <li>○委託金額のほか、サービス内容に着目した委託業者の選定</li> </ul>	△	△	ジェネリック医薬品の比率が低いので、利用拡大を期待したい。 また、委託契約の見直しを始め、より一層の経費節減に向けて本格的な取組を進めていただきたい。



# 平成26年度の取組状況

## 1 安芸津病院評価表

番号	取組方針	取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価	委員意見
4 連携強化						
9	(2病院)協力状況	○医薬品の共同購入 ○医療機能維持・質の向上への協力	○薬品等の購入など2病院共同によるコスト縮減 ○広島病院からの診療応援の継続, 安芸津病院小児科医師の派遣(小児循環器)	○	○	広島病院からの支援を受けるだけではなく, 安芸津病院の地域性や特性を生かした形での広島病院への支援を検討されたい。

## 2 取組結果

5 決算, 目標指標						
10	収支改善・目標指標の達成		○目標達成は手術件数や検診件数など一部の項目のみで, 収支目標は未達成 ○病床利用率, 患者数は前年度と比較して若干下回っているが, 手術件数増加などにより医業収益は, 対前年度+35,191千円 ○第5次広島県病院事業経営計画による更なる経営改善に取り組む	△	△	目標指標の達成状況は, 未達成の項目が多く, 特に内視鏡検査件数は目標を大きく下回っており, 対策が必要と考える。 経常収支は赤字だったものの, 前年度に比べて約3.5千万円の収支改善がなされていることは, 評価したい。

総合評価			○	限られた医療資源のもと, 地域特性を反映した医療機能の発揮に努めており, 評価できる。 今後は, 「病院で治す医療」から, 「地域で治し支える医療」という国の医療政策にしっかりと対応し, 地域包括ケアの後方支援としての役割を果たしていくことを期待したい。 一方, 医療機能面の充実が経営に反映し切れていないと見受けられるので, 経営面の改善にも努めていただきたい。
------	--	--	---	--

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ① 医療提供体制の強化



	H25	H26
自己評価	◎	◎
委員評価	◎	◎

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価																
○医療機能の充実	<p><b>○地域包括ケア病床 H26.7月～15床、11月～21床(稼働率98.3%)</b>  <b>⇒ PT1名を4階病棟へ専従配置</b>  <b>⇒ PTを27年4月から1名増員し、運動器リハ(Ⅰ)復活</b></p> <p><b>○看護補助者 2名増</b>            ○手術件数 H25:376件 ⇒ H26:406件(+30件)            ○化学療法 H25:171件 ⇒ H26:206件(+35件)  <b>○データ提出加算への対応</b></p>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の一般急性期を担う中核的病院として当院の有する専門性及び総合医機能を発揮しつつ、関係機関との連携により、地域包括ケアシステムを医療面から取り組んでいるが、具体化はまだ不十分である。</li> <li>・医療従事者や住民向けの講座の開催や26年度診療報酬改定により新たに設けられた地域包括ケア病床を早期に設置し、訪問診療や訪問看護など、在宅療養生活フォローの充実と併せて在宅復帰への支援に取り組んだ。</li> <li>・地域包括ケア病床は100%に近い稼働率の中、専従の理学療法士によるADL向上のためのリハビリを施し、在宅復帰率85.8%とその機能を発揮している。</li> </ul>																
○地域医療機関等との連携 ・病院の専門性や機能に関する情報を地域医療機関に積極的に提供する。 ・訪問診療、看護、リハビリテーションなどにより在宅療養を支援するとともに地域の医療機関等と連携して在宅療養の患者の急変時や困難事例発生時にも対応する。	<p>○地域医療機関等に開放した医療従事者向け研修会の開催(感染対策、認知症対応、摂食嚥下など)</p> <p>○病診連携カンファレンス「心房細動の治療」を開催</p> <p>○たけはら訪問看護ネットワークで、竹原・安芸津・大崎上島の看護事業者間で連携推進</p> <p>○安芸津地域ケア会議に参画(3回)</p> <p>○安芸津地域関係者ネットワーク会議(2回)</p> <p>地域包括ケアシステム体制構築(院長、副院長、地域包括支援センター、民生委員、ケアマネージャー参加)</p> <p>○隣接する医療圏の三原市、尾道市の病院訪問(地域包括ケア病床の開設の説明など)</p>	<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム構築の中で、近隣診療所との役割分担や将来を見越した関係構築に向けた取組が必要である。</li> <li>・地域包括ケア病床の地域住民への広報</li> <li>・周辺急性期病院から地域包括ケア病床への患者受入れ</li> </ul>																
○小児医療、2次救急医療体制の維持・運営	<p>○小児科の常勤医1名+非常勤の2名体制を維持。(H21～H23は常勤医1名体制)</p> <p>○呉医療センターや県立広島病院への、当院医師の毎週1回ずつの派遣により、都市部における専門的な小児医療(小児循環器)への協力を継続。</p> <p>○大崎上島町保健事業への協力(小児健診へ小児科医師を派遣(H26:4回/年))</p> <p>○竹原市の2病院とともに、竹原・安芸津・大崎上島地域の二次救急輪番体制を維持</p> <p>○救急車受入件数 381件(+61件)</p> <p>○救急からの入院件数 521件(+13件)</p>	<p>救急患者全体の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急車(うち入院)</td> <td>320(196)</td> <td>381(231)</td> <td>61(35)</td> </tr> <tr> <td>救急車以外(うち入院)</td> <td>2,784(312)</td> <td>2,809(290)</td> <td>25(▲22)</td> </tr> <tr> <td>合計(うち入院)</td> <td>3,104(508)</td> <td>3,190(521)</td> <td>86(13)</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H25	H26	増減	救急車(うち入院)	320(196)	381(231)	61(35)	救急車以外(うち入院)	2,784(312)	2,809(290)	25(▲22)	合計(うち入院)	3,104(508)	3,190(521)	86(13)
区分	H25	H26	増減															
救急車(うち入院)	320(196)	381(231)	61(35)															
救急車以外(うち入院)	2,784(312)	2,809(290)	25(▲22)															
合計(うち入院)	3,104(508)	3,190(521)	86(13)															
○在宅療養支援	<p>○円滑な在宅療養に向けた支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退院前訪問の実施(H24:12件 ⇒ H25:19件 ⇒ H26:19件)</li> <li>・退院後72時間以内の電話訪問の実施により不安な在宅療養生活をフォロー            ※ H25年からは退院後の電話訪問を原則全員に実施(H24:64件⇒H25:514件⇒H26:785件)</li> <li>・介護支援事業者等の介護支援専門員とのケアプランの作成等に係る連携(介護支援連携指導料加算 H24:115件⇒H25:129件⇒H26:119件)</li> <li>・外部の介護支援専門員等も交えたケアカンファレンスの開催(H24:287件⇒H25:378件⇒H26:388件)</li> <li>・困難事例1名、デスクカンファレンス2名、外来カンファレンス27名</li> </ul> <p>○訪問看護件数(H24:1,596件⇒H25:1,798件⇒H26:1,825件)、訪問診療件数(H24:75件⇒H25:72件⇒H26:96件)、訪問リハ件数(H24:97件⇒H25:113件⇒H26:48件)</p>	<p>25</p>																

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ① 医療提供体制の強化




取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○人間ドック、がん検診等の受入強化</p>	<p><b>○地域の団体、企業等に新規契約締結(共済組合、企業の健康保険組合)、協会けんぽの加盟企業への受診PR(職員受診企業 H25:45社 ⇒ H26:63社 40%増)</b></p> <p>○健診(検診)件数 H25:7.2件/日 ⇒ H26:8.5件/日(+1.3件/日)</p> <p><b>○上部・下部内視鏡検査の同一日実施</b></p> <p><b>モビブレップ(洗腸剤)の変更による身体的負担の軽減(H26.6月～)</b></p> <p><b>○兼艇外来開設準備チームの発足(H27.4～)</b></p>	 <p>転倒予防体操の普及啓発</p>
<p>○地域との連携強化 ・地域の行政・団体等との活動、人的な協力・支援、地域ネットワークの構築などを積極的に参画</p>	<p>○あきつほっと安心ネットワーク※への参画継続(座長は当院事務長) ※病院、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護施設、消防、社協、包括支援センター、住民団体等が集まり、住みやすい地域づくり活動を行っている。</p> <p>・お薬手帳、情報、生活福祉、防災の4部会の活動</p> <p>・H26の主な活動 各地域の避難場所を取りまとめた携帯用のハザードマップを作成し、全世帯に配布 てくてくウォーキング(5/24転倒予防、9/27認知症予防、11/15糖尿病予防) 防災講演会5回 ふれあい夏まつり、太田地区ふるさとまつりへの参加</p> <p>○転倒予防体操「転倒なしのサンバ」の普及啓発 ⇒ 高齢者サロン出前講座、地域イベント、病院行事等で実演指導に加え、DVDを配布し啓発 ⇒ 健康寿命の延伸を目的とした地域リーダーの育成を図る</p> <p>○地域イベントでの啓発活動の実施 安芸津地域の「福祉まつり」、「安芸津杜氏まつり」、「火とグルメ安芸津フェスティバル」などに病院ブースを設け医療・健康情報の提供や転倒予防体操の普及とともに相談に対応。また、地域の一員としてステージにも出演。</p> <p>○団体の広報誌での医療情報の提供(安芸津社協だより:6回、大崎上島町広報誌:12回)</p> <p>○あきつの福祉を進める会、三津自治会、風早地区社協で健康講座、病院説明等を実施</p> <p>○地域包括支援センター作成の見守りマップへの協力(ACPの普及啓発、エンディングノートの活用)</p> <p>○安芸津地域ケア会議を当院で開催(3回)</p>	 <p>世羅中央病院との交流会</p>
<p>○その他</p>	<p><b>○公立世羅中央病院との連携・交流(H26.10.24)</b></p> <p>・<b>当院のみならず地域一体で訪問(当院事務長、看護部、社協、地域包括支援センター)</b></p> <p>・<b>地域での活動内容の報告、意見交換</b></p>	

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ② 医療の安全と質の向上

	H25	H26
自己評価	○	○
委員評価	○	○

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
○医療安全の確保	<p>○医療安全対策</p> <p>医療安全対策委員会及びセーフティマネジメント部会(それぞれ12回/年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全ラウンド(5S活動)の実施～各部門で目標設定、自己評価</li> <li>・厚生労働省「発がん性を有する化学物品を含有する抗がん剤に対するばく露対策について」に基づき、抗がん剤による暴露対策の実施(物品の選定、マニュアル改訂、医師・看護師・薬剤師・事務の連携、安全キャビネットの選定)</li> <li>・院内医療安全研修会の実施(H26:2回)</li> <li>・薬剤師による研修(H26:2回)「安全な薬物療法」「ワクチン(インフルエンザ・肺炎球菌)について」</li> <li>・ME機器研修の開催(H26:2回)</li> <li>・KYT推進のための患者教育DVD放送(転倒防止)</li> <li>・医療安全情報、医薬品安全情報の発信及び医療安全標語による意識啓発 12回/年</li> <li>・委託職員も含めた全職員による医療安全週間での取組(医療安全週間ミニ職の掲出) (標語: 整えよう療養環境、つくりあげよう作業環境)</li> <li>・医療安全標語による意識啓発</li> <li>・<b>院内マニュアル(薬剤管理マニュアル、抗生物質適正使用マニュアル等)の改訂を行った。</b></li> </ul> <p>○H26年度の購入機器選定に当たり、散薬調剤時の取り違えを防止するため、散薬監視システムを購入</p>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インシデントレポート、KYTによるマニュアル改訂を行った。</li> <li>・従前と比較し、他職種間での円滑な連携が図れている。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに取り組んでいる「院内ディケア」の地域に向けた効果的な広報</li> <li>・糖尿病患者一人一人の生活習慣に着目した、きめ細かな指導の実施</li> <li>・分析事例を最大限に活かしたマニュアル改訂を行う必要がある。</li> </ul>
○医療の質の向上	<p><b>○看護の質向上委員会を中心に、離床の少ない患者のADL向上、在宅復帰支援等を目的とした「院内ディケア」を企画(H27.4～実施) ⇒ 質の向上を図るため、地域の他施設等の見学を実施</b></p> <p><b>○骨粗鬆症研修会(整形外科医による臨床講義)の実施</b></p> <p>○多職種から成る次の5委員会・チームが院内で横断的に活動している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 褥瘡対策委員会 : 褥瘡の予防、発生時の支援、マットレスの管理、褥瘡ラウンドなど</li> <li>2 NST委員会 : 患者の栄養状態の改善、NSTラウンド</li> <li>3 糖尿病教室運営委員会 : 糖尿病教育入院、外来糖尿病教室、フットケア外来、糖尿病ミニ講座など</li> <li>4 感染症対策チーム : 院内感染の防止など(地域での活動も強化し、施設職員等も対象とした研修や、施設への訪問指導、相談対応など、地域全体の感染対策への取組みを推進)</li> <li>5 緩和ケアチーム : 疼痛管理、精神的な支援、緩和ケア外来など(H24.9.1立ち上げ、対象19例、週1回カンファレンス、毎週水曜に外来診療) H25.10日本緩和医療学会認定施設に登録(県内の登録施設は9施設) ⇒H27.4～ 緩和ケア科設置</li> </ol>	 <p>院内ディケアの実施</p>

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ③ 患者サービスの向上

	H25	H26
自己評価	◎	○
委員評価	○	◎

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○利便性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療待ち時間の短縮に向けた対策を検討する。</li> <li>・待ち時間を快適・有益に過ごすための環境づくりに努める。</li> <li>・健診・検査における専任の担当看護師の配置や専用スペースの確保、総合案内の設置などを検討。</li> </ul>	<p><b>○病院利用者等へのサービス向上を図るため、プロポーザル方式によりコンビニエンスストアの売店事業参画を企画(H27.4～運営開始)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中央玄関入口付近に医療相談窓口と総合案内を設置             <ul style="list-style-type: none"> <li>～医療相談窓口には、医療メディエーション研修履修看護師を配置(3名、H24.2～)</li> <li>～総合案内では、職員が毎日患者等に対応し、案内、相談、苦情受付などを実施(平日の午前中)(H26対応件数:2,379件)</li> </ul> </li> <li>○病室環境の整備 ～ 病室内のポータブルトイレを極力減らし、看護スタッフの付添による排泄介助</li> <li>○療養環境の整備 ～ 4階病棟車いす用トイレを改修し利用患者の安全性の向上を図る 冷蔵庫付き床頭台へ更新計画(H27.6実施)</li> <li>○画像サーバーの更新にあわせて、放射線・エコー等の画像システムを拡充し、円滑な診療環境を整備</li> <li>○入院時の身の回りの準備等の負担を軽減するため、衣類等のレンタルと歯ブラシ・石鹸等の消耗品を一括して貸与する入院セットの導入。(H26.2.1～)</li> <li>○H26年度の購入機器選定に当たり、患者の手術時保温を目的に温風式患者加温システムを購入</li> </ul>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた予算の中で、患者・家族の意見も取り入れながら、利用者の利便向上のための環境整備を検討し、可能なものから実施している。</li> <li>・接遇面においても、患者・家族らの目線に立った考え方が浸透しつつあり、クレームの減少にもつながっている。</li> <li>・患者の使用おむつを消臭機能を強化したものに改善するなど、療養環境の改善に取り組んだ。</li> </ul>
<p>○患者ニーズ等への的確な対応と患者支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者アンケートの定期的実施や患者意見書への対応状況の公表を実施。</li> <li>・相談窓口の活用等により、患者及び家族の相談に積極的に対応。</li> <li>・職員の接遇向上</li> </ul>	<p>いただいた意見等については、課題について関係部署で協議するとともに、対応や結果を広報・患者サービス向上委員会で報告</p> <p>病院環境整備や接遇等の向上、委託業者への指導などに活用している。</p> <p>○患者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退院患者は常時実施(回収率78.1%)</li> <li>病棟全体で集計し、課題については関係部署も含め対応を検討</li> <li>【例】院内の説明表示の改善、冷房時間の延長、歩行者・シルバーカーの増設、自動血圧測定器の設置場所の移動など</li> </ul> <p>○患者意見箱</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各病棟やロビーに常設</li> <li>・対応済みのものはロビーに掲示(投稿者のプライバシーに配慮)</li> <li>・「お褒め」について、模範例は院長表彰し、院内に紹介</li> </ul> <p>○地産地消の入院食を提供し、メニューを県庁販売・連携促進課運営のホームページに掲載 (例:安芸津のじゃがいも、菜の花・大崎上島のレモン・しいたけ・衣に酒粕を利用した天ぷら等のほか「ひろしま給食100万食プロジェクト」に協賛したメニューを提供)</p> <p><b>○当院栄養士と給食委託業者とで地元食材を活用した料理を考案し、竹原市で開催された料理コンテストにおいて、3部門中、2部門で表彰を受ける。</b></p> <p><b>○接遇研修の実施</b></p> <p><b>院内ラウンドで各部署の課題を抽出し接遇について協議(来客対応時の挨拶など)</b></p> <p><b>○清掃委託業者を感染症対策、安全環境、接遇等を評価に加え、プロポーザル方式による選定を実施</b></p>	<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来部門、病棟とも建物、施設が古く、ハード面からの根本的な改善に手を付けられていない。旧棟の耐震化と併せて検討していく必要がある。</li> </ul>



竹原市料理コンテスト受賞作  
「瀬戸のかき揚げ」

# I 医療機能の強化と患者サービスの向上

## ③ 患者サービスの向上



取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○広報の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPや広報誌、出版物を活用し、病院の機能や活動内容を積極的に公開する。</li> <li>・患者、地域住民を対象とした講演会の開催や各種行事等への参画により、医療情報の発信に努める。</li> </ul>	<p>○広報誌の発行(年4回)、寄稿(大崎上島町広報、社協だより)の継続実施</p> <p>○安芸津病院オリジナルTシャツの制作(職員手作りのロゴマーク入り)。院内外の活動時に着用し病院をPR</p> <p><b>○26年8月から安芸津町内各地区自治会の協力を得て、病院広報誌「四季だより」の各戸回覧を安芸津町内全地区で実現</b></p> <p><b>○病院ホームページ内に「看護部ブログ」、「小児科ブログ」を立ち上げ</b></p> <div data-bbox="1133 552 1585 839" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">看護部ブログトップページ</p> <p>○医療公開講座の開催 2回(6/28大崎上島:207名参加, 11/8安芸津地区:101名参加)</p> <p>○地域サロン等への出前講座(H26:12回)</p> <p>○大崎上島町シンポジウム「在宅での看取りを考える」参加</p> <p>○糖尿病ミニ講座～年6回シリーズの開催</p> <p>○ペースメーカー講演会</p> <p><b>○地域特産レモンを使用した飲料摂取による骨密度の改善効果に関する調査について、ポッカサッポロ(株)、県立広島大学と共同研究を実施</b></p> <p><b>○東広島地域のミニコミ誌(プレスネット)で当院の転倒予防、患者給食における地産地消メニューが紹介される</b></p> <p>○地域と一体となった健康づくり・病院づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内クリスマスコンサートの開催(継続)</li> <li>・安芸津病院を支援する会役員が広報・患者サービス向上委員会に出席(H22.12～毎月1回)</li> <li>・地域住民も参加した病院周辺のボランティア清掃(2回/年)や地域の美化活動への病院職員の参加</li> <li>・ほっと安心ネットワークや地域団体などが主催する健康づくりのためのウォーキングに病院として参加(4回)</li> </ul> <p><b>・七タコンサートの開催(新規)⇒NHKニュースで紹介される</b></p> <p><b>○必要な患者への肺炎球菌ワクチン接種を勧める</b></p> <p><b>○あきつ福祉をすすめる会、三津自治会、風早地区社協へ出席</b></p> <p><b>副院長及び事務長が出席し、病院機能の説明、がん検診のすすめなど</b></p>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の一員として積極的に地域活動に参画した。</li> <li>・広報誌、地域誌など様々な媒体を活用して病院行事のPRを行った。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院の強み(外科・内科が連携した消化器治療の実施、GCAP・レミケードなどの特殊治療の実施)が十分に広報できていない。</li> </ul> <div data-bbox="1637 919 2018 1206" data-label="Image"> </div> <p>七タコンサート NHKニュースで報道</p>



## II 人材育成・確保・派遣機能の強化

### ④ 医療人材の育成・確保・派遣

	H25	H26
自己評価	◎	○
委員評価	◎	○

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○医師の育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研修プログラムの充実を図り、県外からの医師確保にも積極的に取り組む。</li> <li>高齢者医療、地域医療に対応できる総合診療医を育成する。</li> <li>医師事務作業補助者の配置等により、負担軽減を図る。</li> <li>専任指導医を適切に配置するとともに、学会、セミナー等への参加機会を拡充する。</li> <li>連携する医療機関との共同研修や共同診療、施設のオープン化など、医療資源・機能を最大限活用する。</li> <li>地域の医療機関等への医師の派遣を通して医療水準の向上に取り組む。</li> <li>院内研修会の地域への開放等を通して、地域の医療水準の維持・向上に努める。</li> </ul>	<p>○県立広島病院臨床研修医の地域研修受入開始(H23.8～)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修期間1か月(H25:3名、H26:4名)</li> <li>総合診療医としての知識の修得</li> <li>地域医療の体験(安芸津病院医師の専門性を活かした研修内容とする)</li> <li>指導医の育成</li> <li>臨床研修指導医養成講習会への医師派遣(H23.9～、8名)</li> </ul> <p>○医師派遣の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外科⇒三原市医師会病院(H24:10回⇒H25:2回⇒H26:1回)</li> <li>整形外科⇒済生会呉病院(H24:6回⇒H25:8回⇒H26:5回)</li> <li>小児科⇒呉医療センター(H26:毎週1回)</li> <li>内科⇒安田病院(H26:1回)</li> </ul> <p><b>○地域全体を対象とした研修会開催(H26:5回)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策「身近な感染症対策 インフルエンザ、ノロウイルス対策」、「手洗いと咳エチケット」</li> <li>・摂食・嚥下障害認定看護師による研修</li> <li>・在宅医療委員会・緩和ケア</li> <li>・褥瘡NST委員会</li> </ul> <p><b>○病診連携カンファレンス「心房細動の治療」</b></p>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療機関への医師派遣を継続するほか、地域対象の研修会を積極的に開催した。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泌尿器科など、医師退職後の後任医師の確保が困難である。</li> </ul>

## II 人材育成・確保・派遣機能の強化

### ④ 医療人材の育成・確保・派遣

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○看護師等コメディカルの確保・育成等</p>	<p>○認定看護師養成研修派遣(H24:摂食・嚥下障害看護, H26:感染管理, H27:認知症看護認定看護派遣予定)</p> <p><b>○理学療法士の体制強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・26年7月～地域包括ケア病棟を含む4階病棟に専従PTを配置</li> <li>・27年4月～PT1名増員(4名⇒5名体制へ) ⇒ 運動器リハ(I)の復活</li> </ul> <p><b>○認知症ケア専門士資格取得(看護師3名)</b></p> <p><b>○JICA活動へ職員1名を派遣(H26.1月～ルワンダ)</b></p> <p><b>○看護管理者の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的育成計画に基づいた研修(ファースト, セカンド, サード)への参加</li> <li>・認定看護管理者1名と, 地域の呉共済病院忠海分院, 安田病院, 馬場病院本永病院の各看護部長とで「クローバーの会」を結成し, 情報交換・共有を図る</li> </ul> <p><b>○診療情報管理士の育成計画(H27:2名育成予定)</b></p> <p><b>○看護補助者の育成(H26:2名, H27:3名増員)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育体系の整備しマニュアル化による業務平準</li> <li>・実践力向上のための実習</li> <li>・早出・遅出勤務を実施し, 看護業務の効率化・負担軽減を図る</li> </ul>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた体制の中で, 人材育成, 柔軟な人員配置, スタッフ確保に努めた。</li> <li>・県の目標管理制度を活用し, 上司から部下へきめ細かな指導を徹底することにより, 年度中途の退職者やメンタルでの休職者を出さないよう配慮している。</li> </ul> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ME, 社会福祉士, 診療情報管理士等の専門職が不足している。(配置できていない職種もある。)</li> </ul>



## II 人材育成・確保・派遣機能の強化

### ④ 医療人材の育成・確保・派遣


取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
○医療人材の派遣等	<p>○ 関連病院への医師派遣(整形外科及び外科:手術指導,小児科:小児循環器診療)を継続  外科⇒三原市医師会病院(H24:10回⇒H25:2回⇒H26:1回),  整形外科⇒済生会呉病院(H24:6回⇒H25:8回⇒H26:5回),  小児科⇒呉医療センター(H26:週1回),  内科⇒安田病院(H26:1回)</p> <p>○ 看護師,理学療法士等の養成に係る実習の受入れ継続  看護師 H26:8グループ:延45名  理学療法士 H26:2大学各1名:延67名・日  管理栄養士 H26:1名:延15日  看護職員復職支援事業(実地研修)への協力</p> <p>○ふれあい看護体験(高校生)5人,インターンシップ(大崎海星高校)受入1人×3日</p> <p>○人材育成は広島病院と一体で育成(広島病院の認定看護師を講師とする院内研修会実施など)</p> <p>○広島県看護協会の復職支援事業「看護職のための再チャレンジセミナー」で講演(H26:1回)</p> <p>○地域への出前講座～看護部長,看護スタッフ,事務長等が講師として高齢者サロン,自治会,地区社協,住民団体等へ</p>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた体制の中で,医師のほか,看護師等も積極的に地域に出向いて講演活動を行っている。</li> <li>・看護体験,インターンシップの受入れ継続</li> </ul>

### Ⅲ 危機管理対応力と経営力の強化

#### ⑤ 危機管理対応力の強化

	H25	H26
自己評価	—	○
委員評価	—	○



取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○災害・感染症対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練・研修の実施などによる危機管理対策に取り組む。</li> <li>・災害時や感染症発生時に情報収集・共有を迅速に行うため、地域医療機関等との連携を強化する。</li> </ul>	<p><b>○感染症対策(インフルエンザ対策)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣医療機関での集団発生の情報に速やかICGを参集し、当院における対策の確認・徹底を実施</li> <li>・院内感染アウトブレイク 延有症者15名(入院患者7, 職員8), 死亡事例なし</li> <li>・感染対策マニュアルの改訂</li> </ul> <p><b>○災害支援ナース</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島市で発生した8月豪雨災害へ看護師2名を派遣(延8日間)</li> <li>・活動報告「災害支援ナースの役割」を作成し、院内報告会で職員との共有・学習を実施することにより災害を想定した活動マニュアルの整備を検討</li> </ul> <p><b>○オベ室において、災害発生を想定した机上訓練を実施</b></p> <p><b>○あきつほっと安心ネットワーク防災チームとの連携</b></p> <p>地域と一体となり防災を検討</p> <p><b>○東広島市初期消火競技大会への参加</b></p>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面会制限、コホート管理、基本的な咳エチケット、手洗い等を徹底管理することにより、連鎖的な感染を防止した。迅速な初動体制の確保により被害を最小レベルに留めることができたと評価している。(職員の感染も家庭内での感染であり、院内感染ではない。)</li> <li>・広島市で発生した豪雨災害に迅速に対応した。</li> <li>・感染症や災害の発生を教訓とし、対応マニュアルの見直し、対策の確認徹底を行った。</li> </ul> <p>保健室の前で(頑張る支援ナース!!)</p>  <p>災害支援活動院内報告会資料より</p>

### Ⅲ 危機管理対応力と経営力の強化

#### ⑥ 経営力の強化

	H25	H26
自己評価	○	○
委員評価	○	○

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○情報共有とPDCA</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念、経営目標、経営情報、目標数値等を共有する。</li> <li>・医療需要の把握、経営分析、クリニカルパスの見直しなどにより、経営の効率化を図る。</li> <li>・院内研修を通して、医療環境や経営に関する情報や知識の共有化を図る。</li> <li>・外部評価委員会からの提言や経営戦略会議での議論を踏まえた、PDCAによる改善取組継続。</li> </ul>	<p>○平成25年度に職員全員参加で再設定した病院理念、基本方針に基づき、26年度の病院組織目標を設定</p> <p>○26年4月 全職員への説明会開催(非常勤職員、委託業者含む。)</p> <p><b>○26年度診療報酬改正への対応でプロジェクトチーム設置</b></p> <p><b>○看護補助者の効率的な活用</b></p> <p><b>看護補助者の業務内容を見直したことにより、看護師と看護補助者の役割分担を明確化することができ、業務マニュアルの改訂及び早出・遅出勤務の実施につなげることができた。</b></p> <p><b>○外部評価委員会の意見を踏まえ、在宅療養支援病院に向けての課履や体制づくり等について検討(H27年度中の届出準備中)</b></p> <p><b>・24時間訪問看護や在宅看取りなどを含むマニュアル策定に着手</b></p>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療報酬改定対策プロジェクトチームの活動により、地域包括ケア病床の稼働などを早期に行うことができた。</li> </ul>
<p>○情報処理技術の活用</p>	<p>○電子カルテの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者数、検査・処置等の件数など病院の運営状況を随時把握し、課題分析や対策の検討を速やかに行い、会議等で情報共有できる体制を整備。</li> </ul> <p>○クリニカルパスの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決型のパスから目標達成型(アウトカム志向)のパスへの改善取り組み</li> <li>・電子カルテでのパス稼働件数 16種(内科 10種、外科 3種、整形外科 3種)</li> <li>クリニカルパスの適用件数:164件 適用率12.2% ※H27.4.1~H27.6.16の適用件数:42件(12.6%)</li> <li>・平成27年度も昨年に引き続き、パス分析・修正重点を置き、パス運用が2年以上経過している5種を修正。</li> <li>昨年度から引き続き、クリニカルパス活用のため広島病院から講師を招聘し、院内研修を開催。</li> <li>クリニカルパス委員会内でも研修会を実施。</li> </ul> <p><b>○様式1作成システムの登録データによる分析の実施</b></p>	
<p>○機動的な予算執行と人材の採用等</p>	<p><b>○理学療法士の先行配置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア病床への移行を前提に、26年7月に4階病棟へPTを先行して専属配置</li> <li>・先行配置分の人材確保のため、27年4月にPTを1名増員し5名体制へ(27年4月)</li> <li>～ 運動器リハビリテーション科Ⅱ ⇒ Iへ</li> </ul>	
<p>○弾力的な病床運営</p>	<p><b>○26年4月の診療報酬改定に対応し、亜急性期病床8床の廃止と一般病床からの転換により、地域包括ケア病床を、7月～15床、11月～21床整備して早期に対応</b></p>	

### Ⅲ 危機管理対応力と経営力の強化

#### ⑦ 増収対策

	H25	H26
自己評価	○	○
委員評価	○	○

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○医業収益の増加策</p> <p>・診療報酬改定や国の制度変更迅速に対応し、各種加算の取得に努める。</p>	<p>○診療収益の増 +65,702千円 ←手術、内視鏡検査、各種指導件数の増加など</p> <p>・入院収益 H24: 879,504千円 ⇒ H25: 965,591千円 ⇒ H26: 973,131千円</p> <p>・入院単価 H24: 29,628円 ⇒ H25: 31,611円 ⇒ H26: 32,215円</p> <p>・亜急性期・地域包括ケア病床利用率 H25: 94.9% ⇒ H26: 98.3%</p> <p>・外来収益 H24: 540,753千円 ⇒ H25: 520,368千円 ⇒ H26: 541,536千円</p> <p>・外来単価 H24: 7,121円 ⇒ H25: 6,873円 ⇒ H26: 7,388円</p> <p>・救急搬送受入件数 H24: 318件 ⇒ H25: 320件 ⇒ H26: 381件</p> <p>・手術件数 H24: 306件 ⇒ H25: 376件 ⇒ H26: 406件</p> <p>・CT患者数 H25: 187件/月 ⇒ H26: 192件/月</p> <p>○医業収益の増加策への取組</p> <p>診療報酬施設基準の届出</p> <p>・<b>地域包括ケア入院医療管理料1 (15床)H26.7～ (21床)H26.11～ 効率的な運用(利用率98.3%)、入院単価アップへ</b></p> <p>・<b>胃瘻増設術 H26.4～</b></p> <p>・<b>胃瘻造設時嚥下機能評価加算 H26.4～</b></p> <p>・<b>人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 H26.7～</b></p> <p>・<b>ADL維持向上等体制加算 H26.7～</b></p> <p>・<b>がん治療連携指導料 H26.8～</b></p> <p>・<b>データ提出加算 H27.4～</b></p> <p>・<b>無菌製剤処理料 H27.4～</b></p> <p>・<b>運動器リハビリテーション料(Ⅱ) ⇒ (Ⅰ)へ H27.4～</b></p> <p>・<b>地域包括ケア病床運用開始(H26.7～)により、約4,400万円の増収</b></p> <p>・医師事務作業補助体制加算 H25/5～ (整形外科外来にメディカルクラークを配置。医師の事務負担等)軽減により診療内容が充実→OP件数の増へ(人工関節手術 H24: 64件→H25: 82件→H26: 85件)。</p> <p>・急性期看護補助体制加算</p> <p>・看護補助者増(H26: 2名, H27: 3名)</p>	<p>■自己評価理由</p> <p>・病床利用率、1日平均患者数とも前年を下回るものであったが、手術件数の増などにより、入院・外来とも診療密度が高まり、前年を上回る収益につながった。</p>
<p>○診療報酬請求の改善</p> <p>・診療報酬制度の情報共有と適正な保険診療に努めるとともに、査定減対策に取り組む。</p>	<p>・査定額: 7,087千円</p> <p>・査定率: 0.468%</p>	
<p>○未収金対策</p> <p>・未収金の発生防止と効率的な回収対策に取り組む。</p>	<p>・未収金発生防止</p> <p>診療月の2ヶ月後に督促状を送付し、早期回収に努めている。H24から、時間外の診療で会計窓口が閉まっている際、患者に支払いを約する書面を提出してもらい、未収金発生の防止に努めている。</p> <p>・未収金回収対策</p> <p>医事課との連携を密にし、未払者が来院した際、医事課から総務課に連絡し、総務課職員が面談して早期納付の指導を行っている。その際、一括での支払いが困難な者には、状況に応じて分納を認めている。H24.7から、未収金回収業務の外部委託を導入し、回収対策の強化を図っている。</p>	

### Ⅲ 危機管理対応力と経営力の強化

#### ⑧ 費用合理化対策

	H25	H26
自己評価	○	△
委員評価	○	△

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
<p>○適正な材料・備品の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院の機能に応じた在庫のあり方を検証し、収益性や使用効率の観点を加味した医薬品・診療材料の採用を進める。</li> <li>・後発医薬品の利用を拡大。</li> <li>・共同購入や品目・仕様の共通化。</li> </ul>	<p>○ジェネリック医薬品の利用拡大</p> <p>H26. 1 全品目数767, GE薬品目数159, 品目数比率20. 7%, 購入額比率13. 3%          ⇒H27. 1 全品目数742, GE薬品目数162, 品目数比率21. 8%, 購入額比率14. 6%</p> <p>○H26年度の機器選定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収益向上(電子カルテデータ提出対応 他)</li> <li>患者サービスの向上(患者加温システム, ポバーステーブル, 診察台, 駐車場システム 他)</li> <li>医療安全の向上, 院内感染対策等(テーブルトップ遠心機, 内視鏡システムカート, 散薬監視システム, 尿流用計, 医用画像情報システム, 安全キャビネット 他)</li> <li>耐用年数を大幅に経過し, 老朽化した機器の計画的更新(生体情報モニタ, 電動ベッド 他)</li> </ul>	<p>■自己評価理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品については, 昨年度までの取組を継続して実施した。</li> <li>・委託業者の選定に当たり, 金額以外のサービス内容を考慮した入札を実施した。</li> <li>・しかしながら新たな取組は余り行えず, 大きな成果が出たとは言い難い。</li> </ul>
<p>○経費の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委託内容, 契約方法の見直しを進める。</li> <li>・光熱水費などの節約や, 省エネルギー対策を推進。</li> </ul>	<p>○契約見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>契約更改の都度経費節減に役立つ見直しを実施</li> <li>・複数年契約の導入や, 広島病院と共同での価格交渉を行うなどにより, 医療機器保守委託の契約額を縮減</li> <li>・リースの見直し(リースから購入へ)などによりコスト削減(駐車場システム)</li> </ul> <p>・<b>清掃委託業者の見直し</b></p> <p>・<b>委託金額のほか, 感染症対策・安全環境・待遇等を評価に加えたプロポーザル方式により入札を実施</b></p>	

IV 連携強化  
⑨ 2病院協力状況

	H25	H26
自己評価	○	○
委員評価	○	○

取組項目(計画)	H26の主な取組	取組に対する自己評価
○医薬品の共同購入	<p>○医薬品の共同購入、品目共通化への取組 ～ 医薬品について、広島病院と共同して購入契約及び価格交渉を実施</p> <p>○ジェネリック医薬品の利用拡大 H26. 1 全品目数767, GE薬品目数159, 品目数比率20. 7%, 購入額比率13. 3% ⇒H27. 1 全品目数742, GE薬品目数162, 品目数比率21. 8%, 購入額比率14. 6%</p>	<p>■自己評価理由</p> <p>・広島病院から、随時講師派遣を受けるほか、小児科医を派遣するなど、相互に応援し合える体制を構築している。</p>
○医療機能維持・質の向上への協力	<p>○広島病院へ小児科医師を週1回派遣</p> <p>○広島病院から、循環器内科医師(毎日派遣)、呼吸器内科医師(月1回)の派遣</p> <p>○都市型の高度急性期病院である広島病院から、看護師やコメディカルの転入受け入れにより、地域における高齢者医療や在宅医療などを実践する機会を提供</p> <p>○広島病院の臨床工学技士の派遣による医療機器の定期保守点検の実施(2回×3日間)及び各回ごとの研修会の実施(人工呼吸器の取扱い、シリンジポンプの操作説明など)</p> <p>○広島病院からCHDF(持続的血液ろ過透析)治療にかかる人材応援受け入れ(1名)。院内教育の実施。</p> <p>○広島病院臨床腫瘍科外来部門への研修視察(2名派遣)</p> <p>○広島病院主催の看護部研修会に安芸津病院職員が参加</p> <p>○県立病院看護研究発表会を共催(H26.10.18)</p> <p>○臨床検査科職員の広島病院でのエコー検査実地研修の実施(1名×月2回)</p> <p>○広島病院と共同で備品購入(人工呼吸器) 推定削減効果額: 1, 900千円</p> <p>○病理診断連携についての可能性について協議 H26.2～継続中</p> <p><b>○集中ケア認定看護師2名</b> <b>広島病院より3回シリーズでの研修実施</b></p> <p><b>○看護記録研修の実施(広島病院看護師2名)</b></p>	

## V 決算・目標指標

### ⑩ 収支改善・目標指標の達成

	H25	H26
自己評価	△	△
委員評価	○	△

取組項目(計画)	数値目標	取組結果(H26)	達成状況	課題・今後の取組
1.新規入院患者	120人/月	104人/月	未達成	<p>○課題・特記事項 手術件数及び検(健)診件数などは目標を達成できたものの、患者数や経常収支などは目標を達成できていない。</p> <p>しかしながら、患者数の減少を微減に抑えるとともに、医療提供内容を工夫して、医業収益の増を達成している。</p> <p>○今後の取組 一定の患者数を確保するとともに、経常収支の黒字化などの目標達成に向けて、改善に取り組む。</p>
2.紹介率	20%	18.0%	未達成	
3.手術件数	30件/月	34件/月	☆ 達成	
4.内視鏡検査件数	203件/月	129件/月	未達成	
5.介護支援連携指導料加算件数	10件/月	10.2件/月	☆ 達成	
6.訪問看護件数	140件/月	152件/月	☆ 達成	
7.検(健)診件数	6件/日	8.5件/日	☆ 達成	
8.地域開放型研修会開催回数	15回/年	11回/年	未達成	
9.経営に関する指標	経常収支の黒字	▲45,619千円	未達成	